

秋田県文化財調査報告書第217集

遺跡詳細分布調査報告書

秋田県埋蔵文化財センター

1991・3

秋田県教育委員会

# 遺跡詳細分布調査報告書

1991・3

秋田県教育委員会

## 序

本県には、貴重な文化財が数多くあり、埋蔵文化財もその一つであります。これら先人の残した文化遺産を保護し後世に伝えて行くことは、私達に課せられた責務であります。これとともに、豊かで快適な生活を築くための地域開発や道路を主体とする交通体系の整備は、県民の切実な要望であります。

ともすれば、埋蔵文化財の保護と地域開発の推進を並行させることには困難を伴うこともあります。両者の調和のとれた行政施策が今日的課題であり、そのための基礎となるのが遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査であります。

本報告書は、平成2年度国庫補助事業として実施した、東北横断自動車道秋田線建設事業・軽井沢地区開拓地農道整備事業などの分布調査と、秋田外環状道路建設事業・曲田地区農免農道整備事業・県営圃場整備事業などの遺跡範囲確認調査の結果をまとめたものであります。

最後になりましたが、これらの調査に協力いただきました関係各機関に感謝申し上げますとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきましてご協力下さいますようお願い申し上げます。

平成3年3月5日

秋田県教育委員会

教育長 橋 本 顕 信

## 例 言

- 1 本書は、平成2年度に秋田県教育委員会が国庫補助を得て実施した、遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査の報告書である。
- 2 本書に掲載の遺跡分布調査・範囲確認調査は、主に秋田県教育庁文化課・秋田県埋蔵文化財センターの職員が担当した。報文は、各調査担当者が作成したものを、秋田県埋蔵文化財センターが編集した。
- 3 遺跡分布調査のうち、県営雄平東部地区広域農道整備事業と県営公害防除特別土地改良に係る土取り事業は、調査の結果、路線区内及び事業区内に遺跡が確認されなかったため、本報告から除外した。
- 4 遺跡範囲確認調査のうち、東北横断自動車道秋田線建設事業に係る小松原遺跡と大畑潜沢Ⅱ遺跡は、調査の結果、調査区内から遺構などが確認されなかったため、本報告から除外した。
- 5 報告書に使用した地図は、建設省国土地理院発行の5万分の1地形図・2万5千分の1地形図と、日本道路公団・建設省・秋田県農政部・秋田県土木部が作成した1千分の1・5百分の1の地図である。

# 目 次

序	
例言	
第1章 はじめに	1
第2章 平成2年度遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査実施要項	1
第1節 遺跡分布調査	1
第2節 遺跡範囲確認調査	2
第3章 調査の記録	5
第1節 遺跡分布調査	5
1 東北横断自動車道秋田線建設事業	5
2 秋田外環状道路建設事業	6
3 県道田山花輪線道路改良工事	6
4 曲田地区農免農道整備事業	7
5 軽井沢地区開拓地農道整備事業	8
6 県営圃場整備事業	9
第2節 遺跡範囲確認調査	10
1 東北横断自動車道秋田線建設事業	10
虫内Ⅰ遺跡	10
新町遺跡	20
2 秋田外環状道路建設事業	23
待入Ⅲ遺跡	23
大平遺跡	26
3 琴丘・能代道路建設事業	30
八幡台遺跡	30
4 国道103号道路改良工事	33
山王岱遺跡	33
上野遺跡	37
5 曲田地区農免農道整備事業	39
家ノ後遺跡	39
上聖遺跡	45
6 県営圃場整備事業	48
白坂遺跡	48
7 秋田ふるさと村建設事業	54
田久保下遺跡	54
8 県道協和・松ヶ崎線道路改良工事	60
和田遺跡	60

## 第1章 はじめに

国庫補助事業費を得て実施した平成2年度の遺跡詳細分布調査は、東北横断自動車道秋田線建設事業・秋田外環状道路建設事業・県道田山花輪線道路改良工事・曲田地区農免農道整備事業・軽井沢地区開拓地農道整備事業・県営圃場整備事業・県営雄平東部地区広域農道整備事業・県営公害防除特別土地改良事業に係る土取事業等の遺跡分布調査と、東北横断自動車道秋田線建設事業・秋田外環状道路建設事業・琴丘能代道路建設事業・秋田ふるさと村建設事業・国道103号道路改良工事・曲田地区農免農道整備事業・県営圃場整備事業等に係る遺跡範囲確認調査である。これらの調査は、既に策定してある調査要項に基づいて、秋田県教育庁文化課が、秋田市教育委員会、鹿角市教育委員会、大館市市史編纂室の専門職員の協力を得て、平成2年4月から12月にかけて実施したものである。

## 第2章 平成2年度遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査

### 第1節 遺跡分布調査

#### 1 調査の目的

開発予定地内を踏査して、遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を講ずる。

#### 2 調査の方法

- (1) 計画地域の範囲内で遺物の表面採集及び試掘調査を実施して、遺跡の所在を確認する。
- (2) 調査の期間は概ね1～5日間とし、地元の人々の遺跡についての情報を活用する。
- (3) 確認された遺跡を地図に記入するなどの記録は、必ず現場で行う。
- (4) 遺跡の現況、遠景を必ず写真撮影する。同時に遺跡に至るまでの経路、目標を詳しく記録し、初めての人でも迷わず現場に到着できるようにする。
- (5) 使用する地図は、2.5万分の1地形図と開発部局で作成した図面とする。

#### 3 事業主体

秋田県教育委員会

#### 4 調査担当者

秋田県教育庁文化課	学芸主事	熊谷 太郎
秋田市教育委員会	主事	納屋 信広
大館市市史編纂室	主事	板橋 範芳
鹿角市教育委員会	主任	秋元 信夫

## 5 調査対象地域及び事業名

NO	事業名	調査期間	調査結果等
1	東北横断自動車道秋田線建設事業（秋田市）	平成2年11月20・21日	路線に係る周知の遺跡3カ所と新発見の遺跡1カ所を確認
2	秋田外環状道路建設事業（秋田市）	平成2年4月23日	事業に係る新発見の遺跡1カ所を確認
3	県道田山花輪線道路改良工事（鹿角市）	平成2年7月11日	路線に係る周知の遺跡1カ所を確認
4	曲田地区農免農道整備事業（大館市）	平成2年6月29日	路線に係る新発見の遺跡2カ所を確認
5	軽井沢地区開拓地農道整備事業（羽後町）	平成2年6月1日	路線に係る周知の遺跡1カ所と新発見の遺跡1カ所を確認
6	県営圃場整備事業（森吉町）	平成2年4月24日	事業区域内に周知の遺跡1カ所を確認
7	県営雄平東部地区広域農道整備事業（横手市）	平成2年6月14日	路線区域内に遺跡は確認されなかった
8	県営公害防除特別土地改良事業に係る土取り事業（羽後町）	平成2年12月7・8日	事業区域内に遺跡は確認されなかった

## 第2節 遺跡範囲確認調査

## 1 調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の範囲確認調査を実施して、埋蔵文化財の保護と保存を図る。

## 2 調査の方法

- (1) 遺跡の広がり、埋没の度合、時代とその性格を知るために、当該地域で遺物の表面採集及び小規模の発掘調査（遺構確認面までの掘り下げを基本とする）を行う。
- (2) 調査の期間を概ね2～10日間とし（調査対象面積に応じて増減を図る）、その期間内に、できるかぎり遺構・遺物の広がりを確認する。
- (3) 確認された遺構・遺物、堆積土の厚さ、遺物包含層などの記録は現場で行う。その際、遺跡の全景と発掘調査状況、確認された遺構・遺物などは必ず写真撮影をする。

(4) 使用する地形図は、開発部局で作成した一番大きな縮尺図面とし、新規に測量などは行わない。

(5) 遺跡の立地条件などに即した適切な調査をする。

### 3 事業主体

秋田県教育委員会

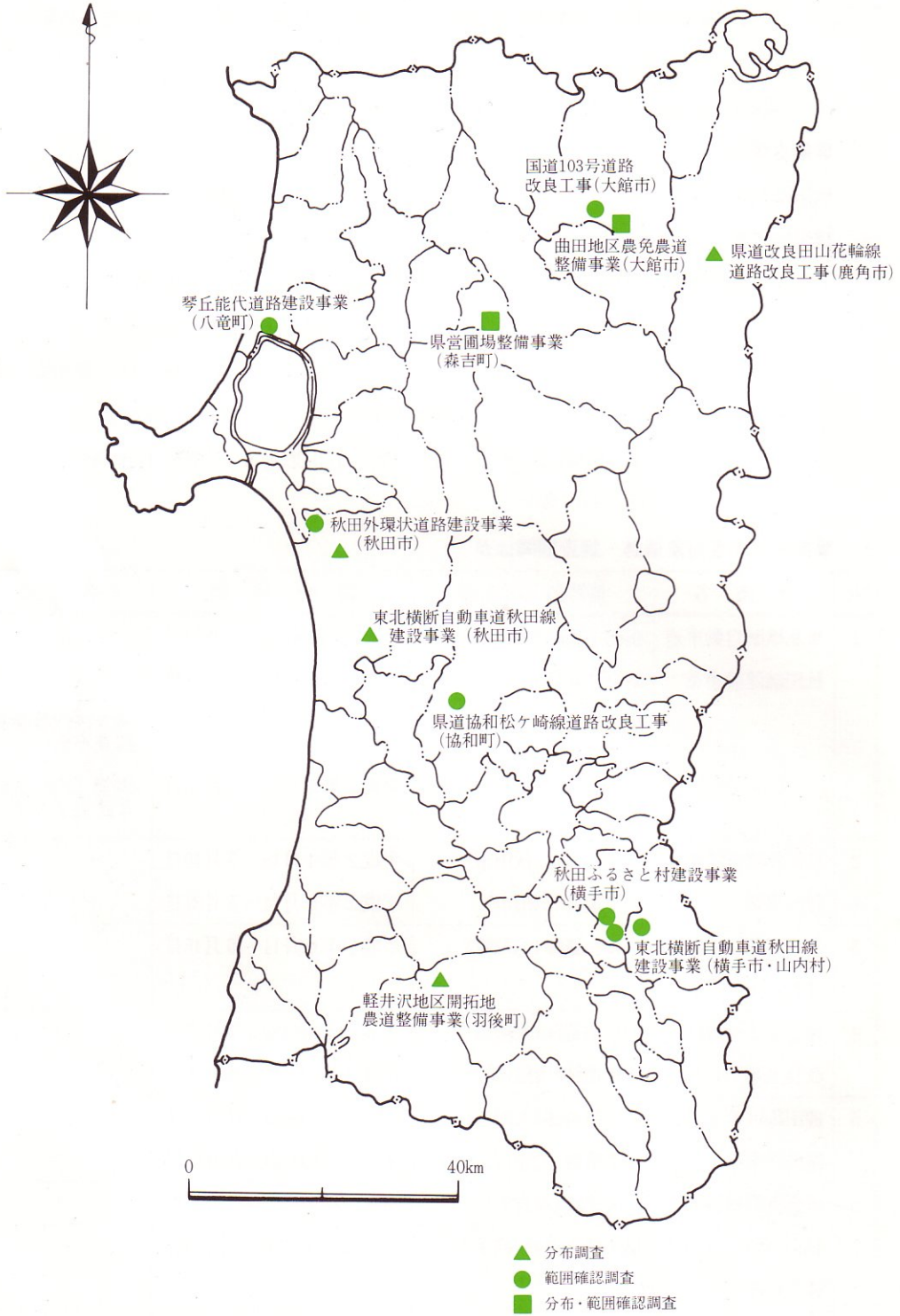
### 4 調査担当者

秋田県埋蔵文化財学芸主事 大野憲司、同 榮一郎、同 利部 修、同 小畑 巖、センター 同 谷地 薫、同 高橋 学、同 武藤祐浩  
文化財主査 庄内昭男、同 桜田隆、文化財主任 柴田陽一郎、同 高橋忠彦、文化財主事 小林 克、同 栗澤光男  
非常勤職員 小山内透、同 石川恵美子、同 佐藤尚明  
同 石川真一

### 5 事業名・調査対象遺跡・調査期間ほか

No	事業名	遺跡名・所在地	調査期間	摘要
1	東北横断自動車道 秋田線建設事業	虫内Ⅰ遺跡(山内村) 新町遺跡(横手市) 小松原遺跡(横手市) 大畑潜沢Ⅱ遺跡(南外村)	平成2年6月11～6月22日 平成2年5月14～5月23日 平成2年5月14～5月23日 平成2年5月21～5月23日	調査区内は発掘調査不要 調査区内は遺跡と認定できず
2	秋田外環状道路 建設事業	待入Ⅲ遺跡(秋田市) 大平遺跡(秋田市)	平成2年4月18～5月10日 平成2年5月14～5月31日	
3	琴丘・能代道路 建設事業	八幡台遺跡(八竜町)	平成2年6月11～6月15日	
4	国道103号道路 改良工事	山王岱遺跡(大館市) 上野遺跡(大館市)	平成2年10月22～10月23日 平成2年10月18～10月19日	
5	曲田地区農免農道 整備事業	家ノ後遺跡(大館市) 上聖遺跡(大館市)	平成2年10月29～11月1日 平成2年10月24～10月25日	
6	県営圃場整備事業	白坂遺跡(森吉町)	平成2年10月22～11月9日	
7	秋田ふるさと村 建設事業	田久保下遺跡(横手市)	平成2年4月16～4月19日	
8	県道協和・松ヶ崎 線道路改良工事	和田遺跡(協和町)	平成2年4月16～4月19日	





第1図 遺跡分布・遺跡範囲確認調査位置図

## 第3章 調査の記録

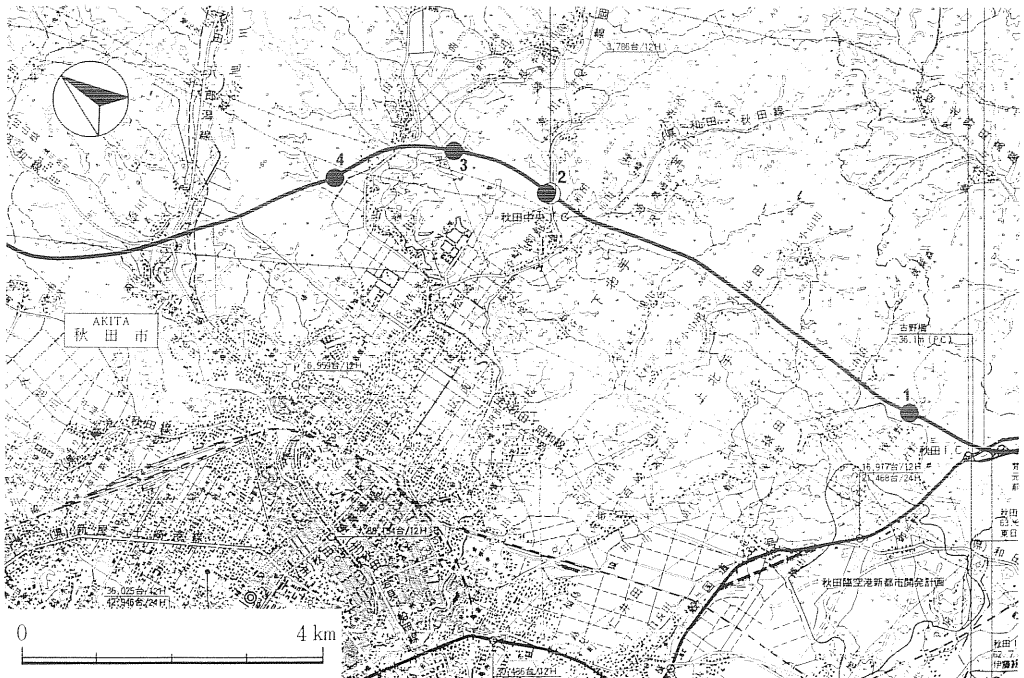
### 第1節 遺跡分布調査

#### 1 東北横断自動車道秋田線建設事業（秋田・秋田間）（第2図）

秋田市上北手古野から上新城道川に至る延長16.1kmの高速自動車道で、北側で秋田外環状道路と接続する計画の路線である。平成元年度に一部踏査を行ったが、本年度は改めて全線を踏査し、遺跡の占地の可能性が強い箇所については試掘を実施したものである。

その結果、新発見の遺跡1カ所と、周知の遺跡3カ所が路線に係ることを確認した。なお、この外1カ所については事業上試掘を行うことが出来ず、後日改めて遺跡か否かの確認を行う必要がある。

NO	遺跡名	所在地	時代等	現況	備考
1	古野遺跡	秋田市上北手古野字向老方	縄文時代	畑地、宅地	周知の遺跡
2	石神遺跡	秋田市柳田字石神	平安時代、塚	山林	新発見の遺跡
3	戸平川遺跡	秋田市添川字戸平川	縄文・平安時代	畑地、山林	周知の遺跡
4	蟹子沢遺跡	秋田市濁川字蟹子沢	縄文・平安時代	山林	周知の遺跡



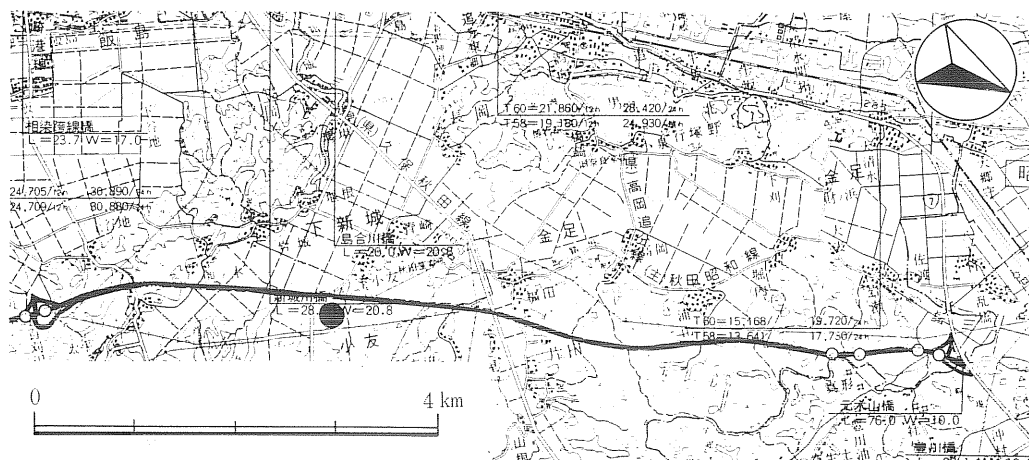
1：古野遺跡 2：石神遺跡 3：戸平川遺跡 4：蟹子沢遺跡

第2図 東北横断自動車道秋田線建設事業地内遺跡位置図

## 2 秋田外環状道路建設事業 (第3図)

路線に係る遺跡については、昭和63年度・平成元年度の調査により8カ所確認されているが、本年度は道路建設により消滅する墓地の代替地について行ったもので、調査の結果、新たに1カ所の遺跡を確認した。

NO	遺跡名	所在地	時代等	現況	備考
1	山崎遺跡	秋田市下新城小友字山崎	平安時代	山林	新発見の遺跡

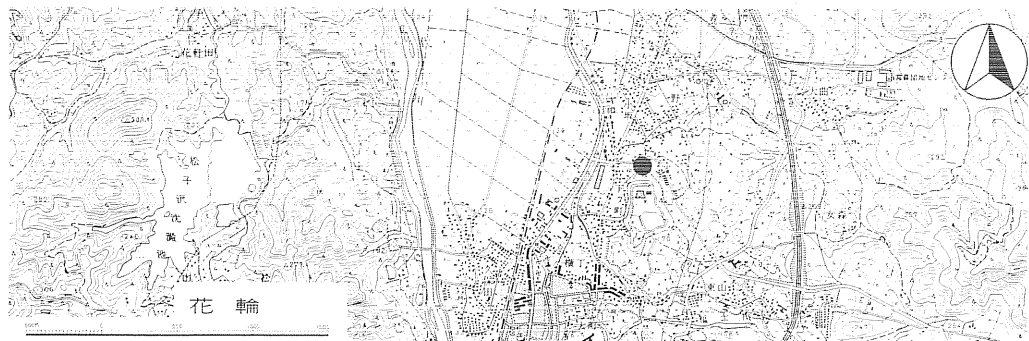


第3図 秋田外環状道路建設事業地内遺跡 ● 事業地内遺跡 ○ 路線内遺跡

## 3 県道田山花輪線道路改良工事 (第4図)

鹿角市花輪下町から福士に至る延長1.04kmの計画路線で、この区間について分布調査を実施した。調査の結果、周知の遺跡1カ所が路線に係ることを確認した。

NO	遺跡名	所在地	時代等	現況	備考
1	天戸森遺跡	鹿角市花輪字陣馬142の1、外	縄文時代・館跡	畑地・山林	周知の遺跡



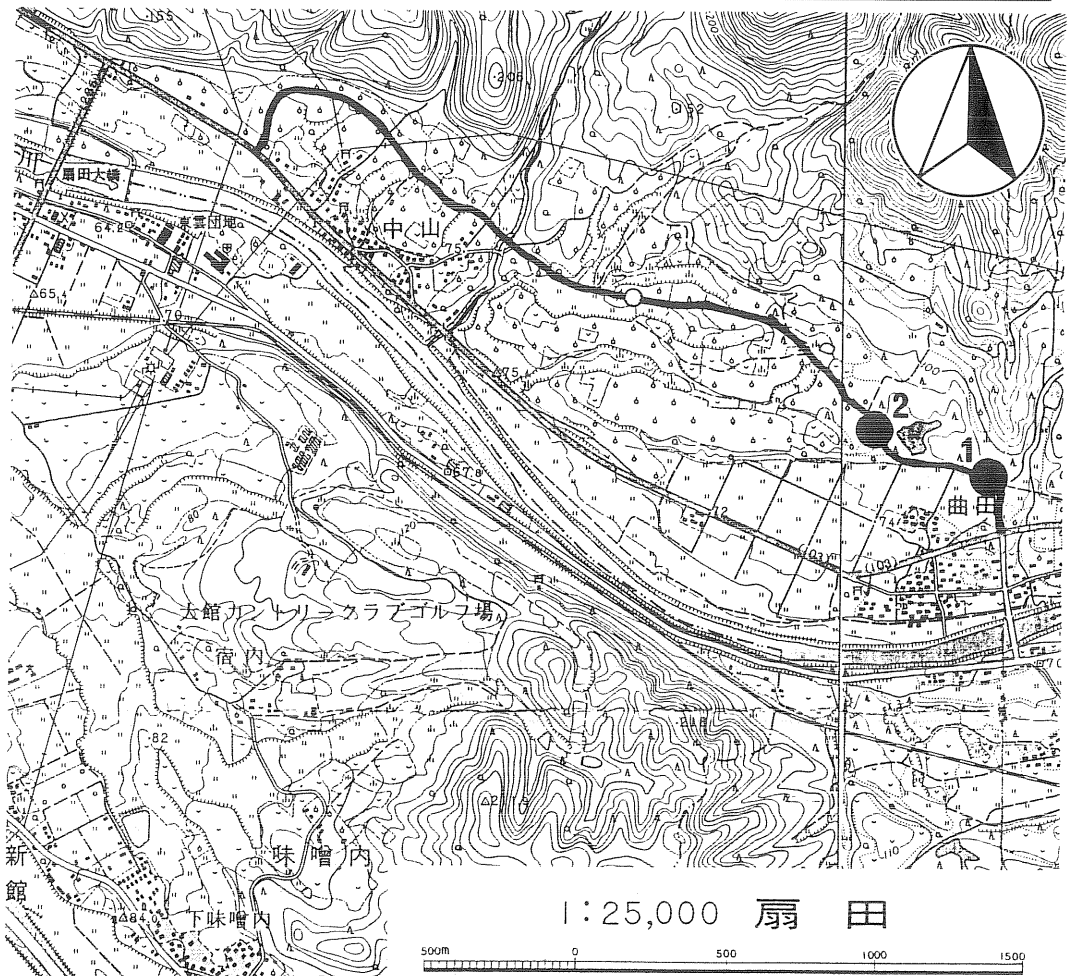
第4図 県道田山花輪線道路改良工事地内遺跡位置図

## 4 曲田地区農免農道整備事業 (第5図)

平成元年度に実施した分布調査により路線上に1カ所の遺跡が係ることを確認したが、その他、遺跡が否か明確でない地点もあり、本年度はこのうち、調査可能な地点に対し試掘を行ったものである。

その結果、新発見の遺跡が2カ所確認された。このほか、遺跡の占地の可能性の強い地点が5カ所認められたが、これらについては、後日改めて試掘調査等を行って、遺跡の有無を確認する必要がある。

NO	遺跡名	所在地	時代等	現況	備考
1	家ノ後遺跡	大館市曲田字家ノ後96の2、外	縄文時代	山林	新発見の遺跡
2	上聖遺跡	大館市曲田字上聖3の2、外	縄文時代	山林	新発見の遺跡



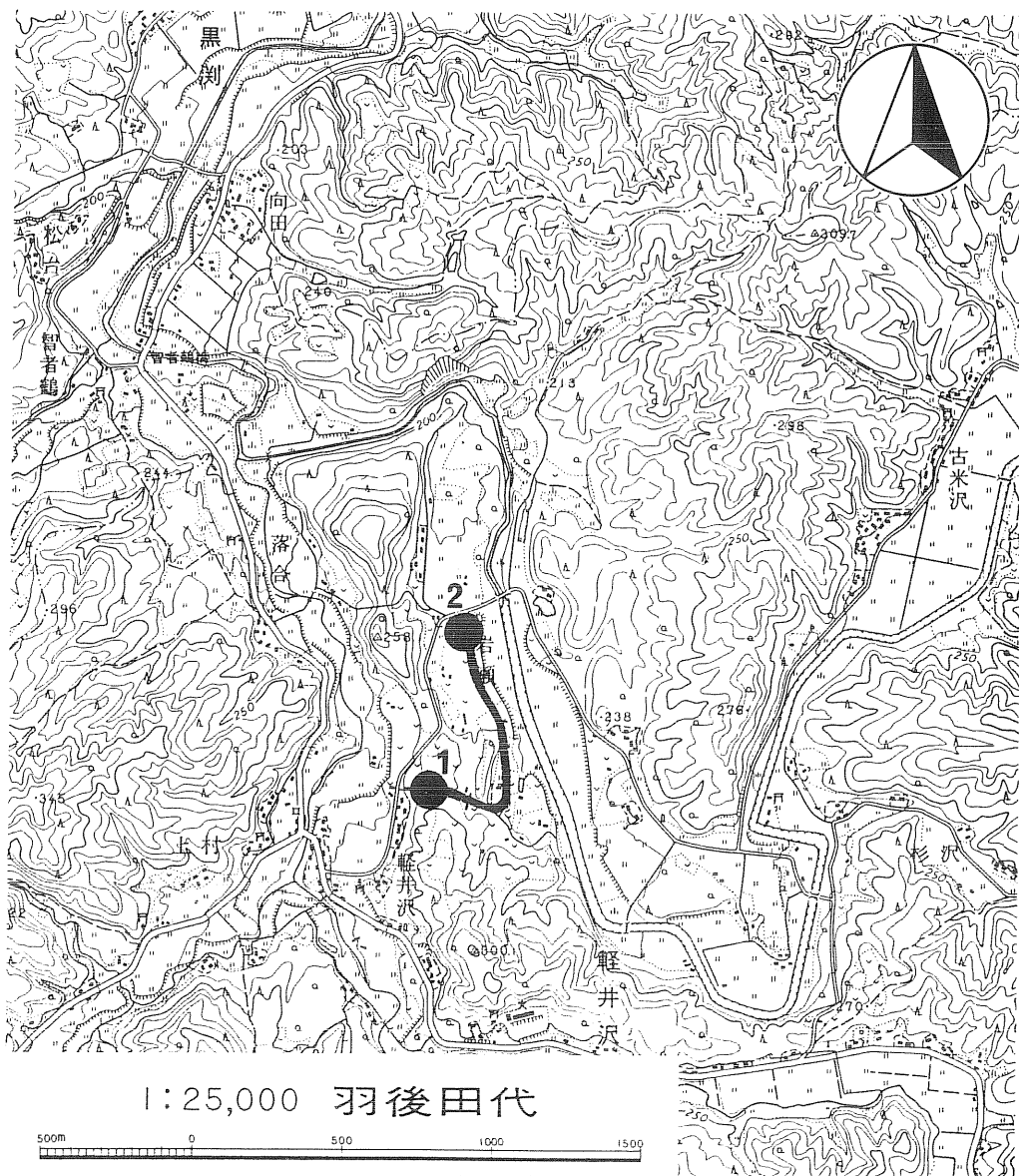
第5図 曲田地区農免農道整備事業地内遺跡位置図

○ 平成元年度確認遺跡  
1：家ノ後遺跡 2：上聖遺跡

5 軽井沢地区開拓地農道整備事業 (第6図)

羽後町軽井沢地内における延長1.218kmの計画路線で、この区間について調査を実施した。  
調査の結果、周知の遺跡1カ所と新発見の遺跡1カ所が路線に係ることを確認した。

NO	遺跡名	所在地	時代等	現況	備考
1	軽井沢山開拓遺跡	雄勝郡羽後町軽井沢字戸呂淵	縄文時代	畑地	周知の遺跡
2	戸呂淵遺跡	雄勝郡羽後町軽井沢字戸呂淵18の14			



第6図 軽井沢地区開拓地農道整備事業地内遺跡位置図

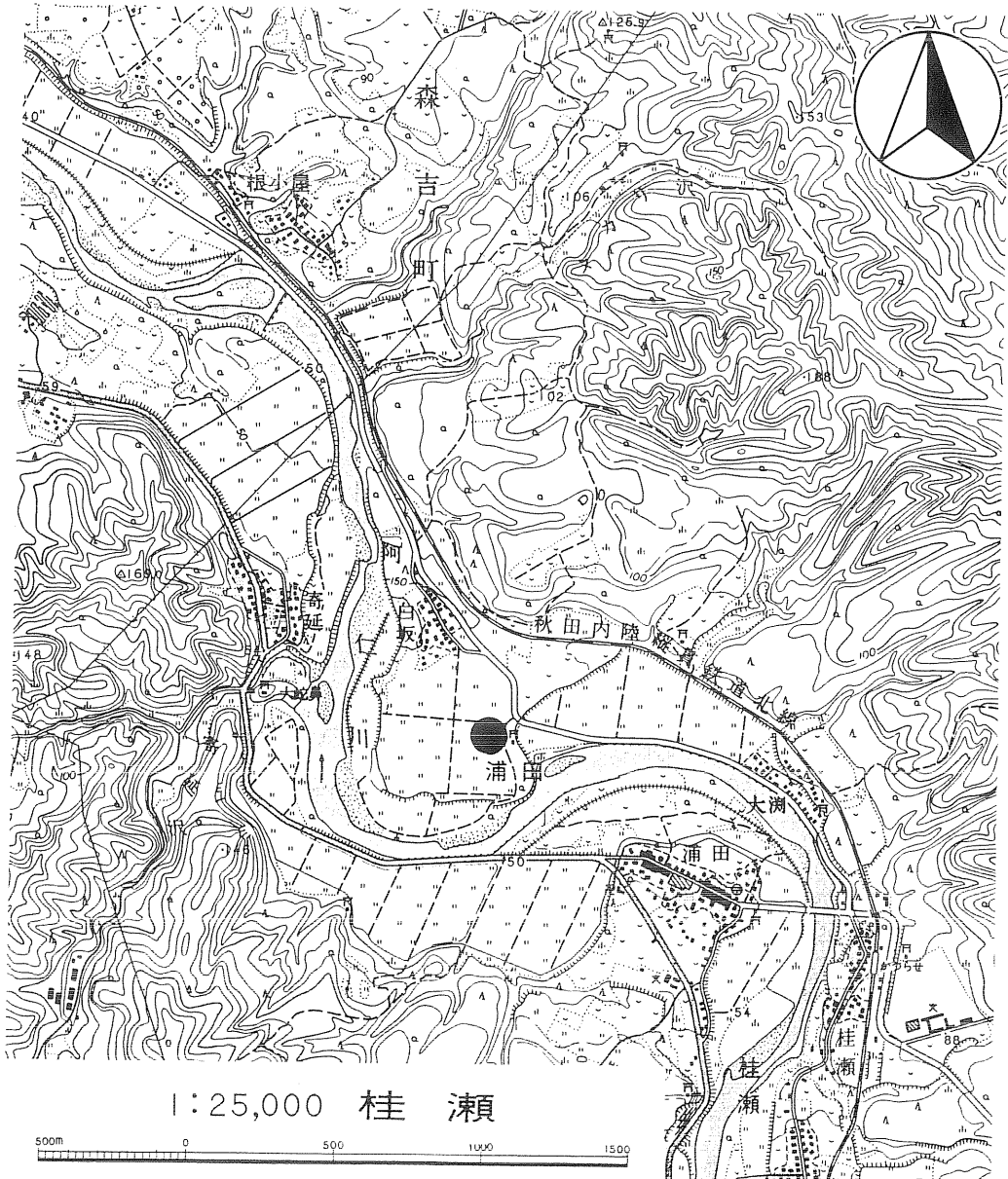
1 : 軽井沢山開拓遺跡  
2 : 戸呂淵遺跡

## 6 県営圃場整備事業 (第7図)

北秋田郡森吉町白坂地区における圃場整備事業で、対象面積は約22haである。

調査の結果、周知の遺跡が1カ所事業区域内に係ることを確認した。

NO	遺跡名	所在地	時代等	現況	備考
1	白坂遺跡	北秋田郡森吉町浦田字上岱70	縄文時代	水田	周知の遺跡



第7図 県営圃場整備事業区域内遺跡位置図

## 第2節 遺跡範囲確認調査

### 1 東北横断自動車道秋田線建設事業

#### 虫内Ⅰ遺跡

- 1 所在地 平鹿郡山内村土淵字虫内45番地、外
- 2 工事区域内遺跡範囲 7.400m<sup>2</sup>
- 3 調査期間 平成2年6月11日～6月22日
- 4 調査担当者 大野 憲司、佐藤 尚明
- 5 遺跡の立地と現況

虫内Ⅰ遺跡は、奥羽山脈の西側山地を縫うようにして西流する横手川の左岸低位段丘上に立地している。JR東日本北上線相野々駅の西約700mである。

山内村南郷方面から西流してきた横手川は、虫内部落の東側直近で流路をほぼ直角に北に変える。遺跡は、この屈曲部西側に位置し、遺跡の南側と西側に迫る山地の山懐に抱かれるように所在している。遺跡の立地する低位段丘面は、微視的には南西側がやや高く北東側に漸移的に低くなるが、ほぼ平坦な面をなしている。遺跡中央部の標高は約105mで、横手川の現河水面との比高差は約10mである。

遺跡の東側と西側には、それぞれ虫内Ⅲ・虫内Ⅱ遺跡が隣接している。現況は、葡萄畑を主とする果樹園と畑地である。

遺跡の土層は以下のとおりであるが、地点によってかなり違いがある。

第1層は黒褐色耕作土で、細片となった遺物を含む。層厚は20～35cmの部分が殆どであるが、捨場1では、重機で一度掘削された後に埋め戻されており、40～50cmである。第2層は黒色～黒褐色土で、遺物を若干含む。層厚は0～15cmで、本層の無い部分も存在する。本層の上面あるいは中位で土器埋設遺構や土壙墓に係る河原石が検出されることがある。第3層は暗褐色～黒色土で、遺物包含層である。層厚は4～40cmで、焼土を含む部分もある。第4層は黒褐色の漸移層で、層厚5～10cmである。第5層は地山土で、にぶい黄橙色～明黄褐色の砂質粘土あるいは砂利層である。柱穴様ピット等は本層上面で確認出来る。

#### 6 範囲・時代・性格

調査は、工事計画用中心杭ラインに直交する幅1mのトレンチを、20m間隔に7本と短いトレンチ2本を設定した。その結果、調査対象区全域から縄文時代後期～晩期の土坑33

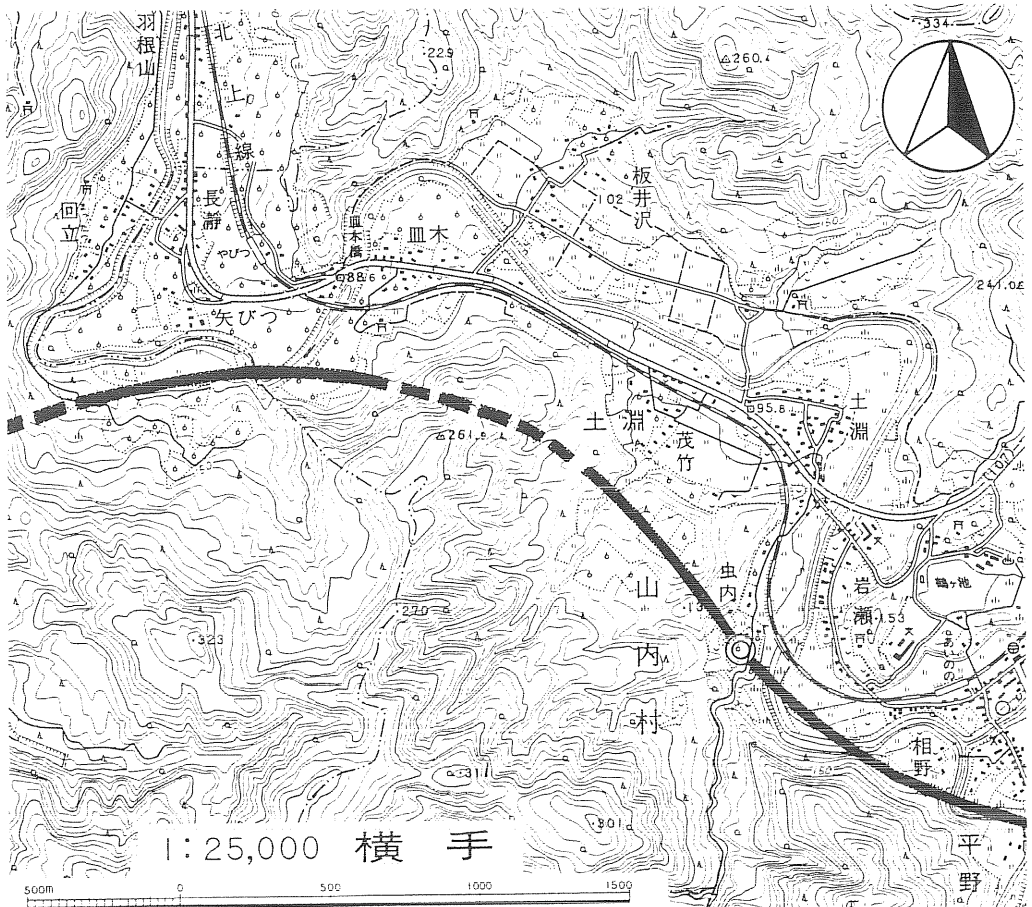
基、土器埋設遺構5基、その他の遺構7基、柱穴様ピット60個等の他、捨場2カ所が検出され、当該期の土器・石器がコンテナで13箱出土した。

土坑の多くは、長径1.2m前後の楕円形で、中心部に大～中型の河原石を立てたものがあり、その殆どは土墳墓であると考えられる。土器埋設遺構は、粗製深鉢形土器（1基は壺形土器）を成立させたもので、その大部分は土器棺と考えられる。

捨場1は調査区の南部にあり、大規模である。この部分は地山が浅い沢状になだらかに窪んでおり、そこに土器や石器等の遺物が最大で約40cmの厚さで包含されている。捨場2は調査区北西部にあり、小さい規模のものと思われ、包含層の厚さは25cm前後である。

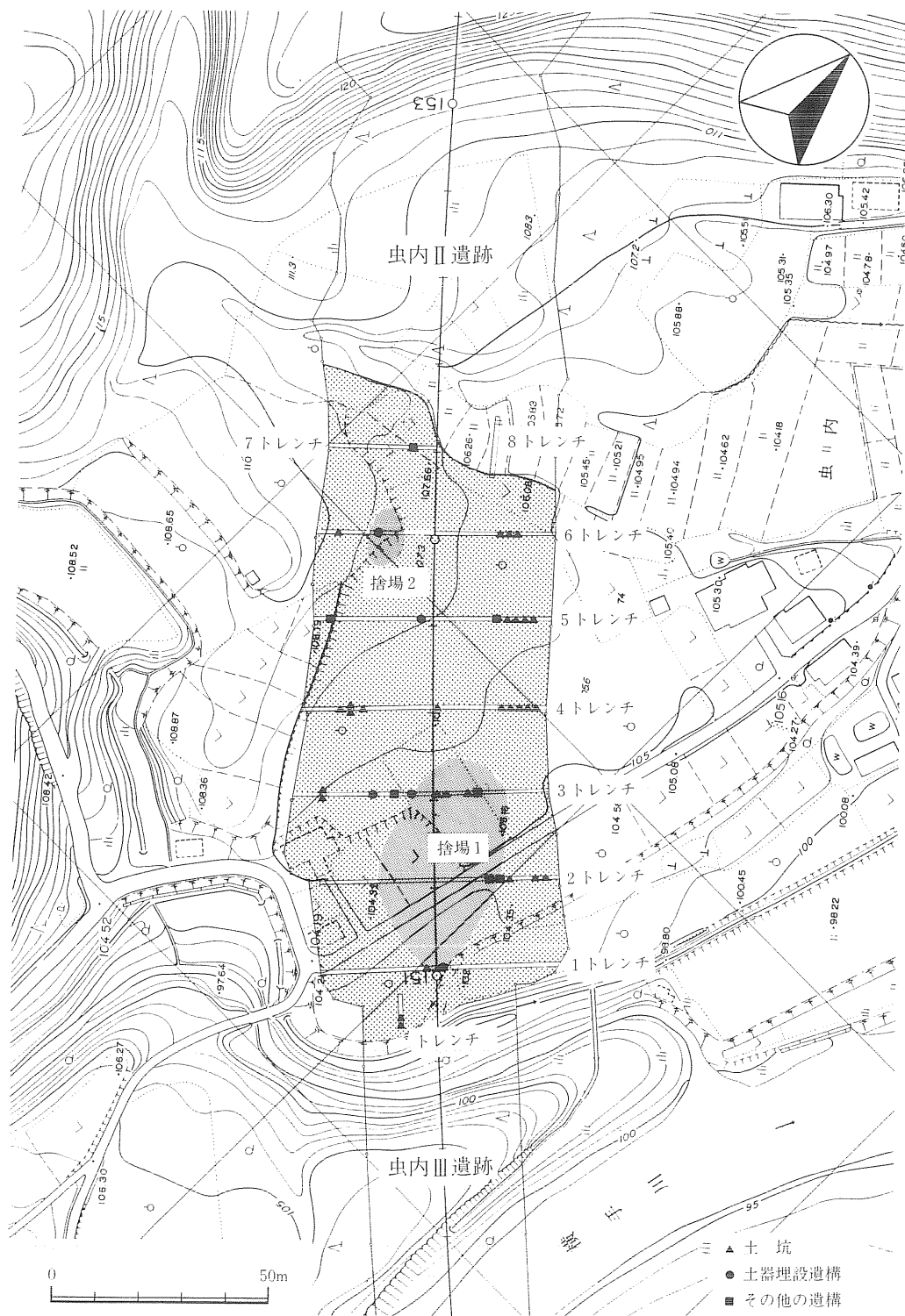
以上の遺構群及び捨場は、調査区中央から中央北西にかけての遺構・遺物共に少ない部分を取り囲むように分布している。

このようなことから本遺跡は、縄文時代後期から晩期の墓域を主体とする遺跡であると考えられる。



第8図 虫内I遺跡 位置図

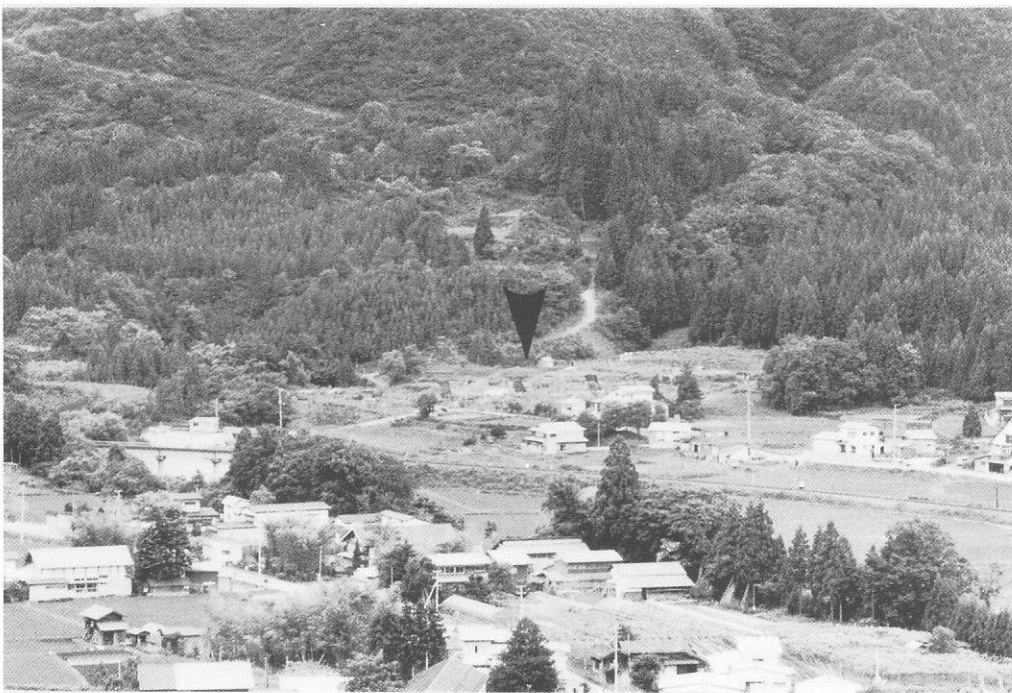




第9図 虫内I遺跡 範囲確認調査トレンチ位置と検出遺構配置図及び工事区域内遺跡範囲図



第10図 虫内I遺跡 遠景（北東▶）



第11図 虫内I遺跡 全景（北東▶）

虫内 I 遺跡



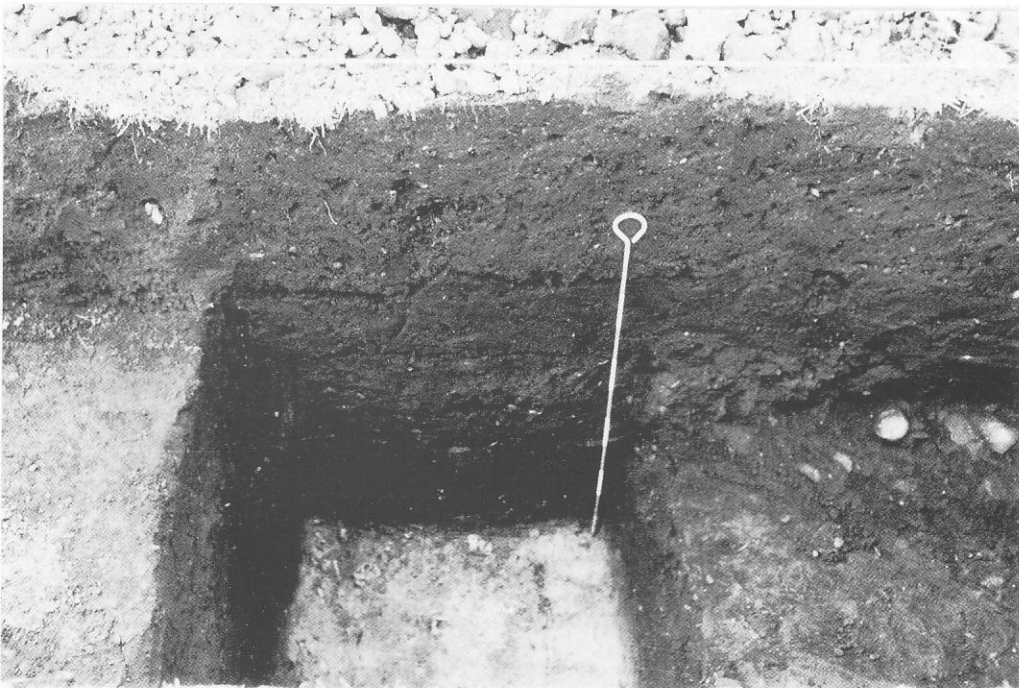
第12図 虫内 I 遺跡 全景 (北西▶)



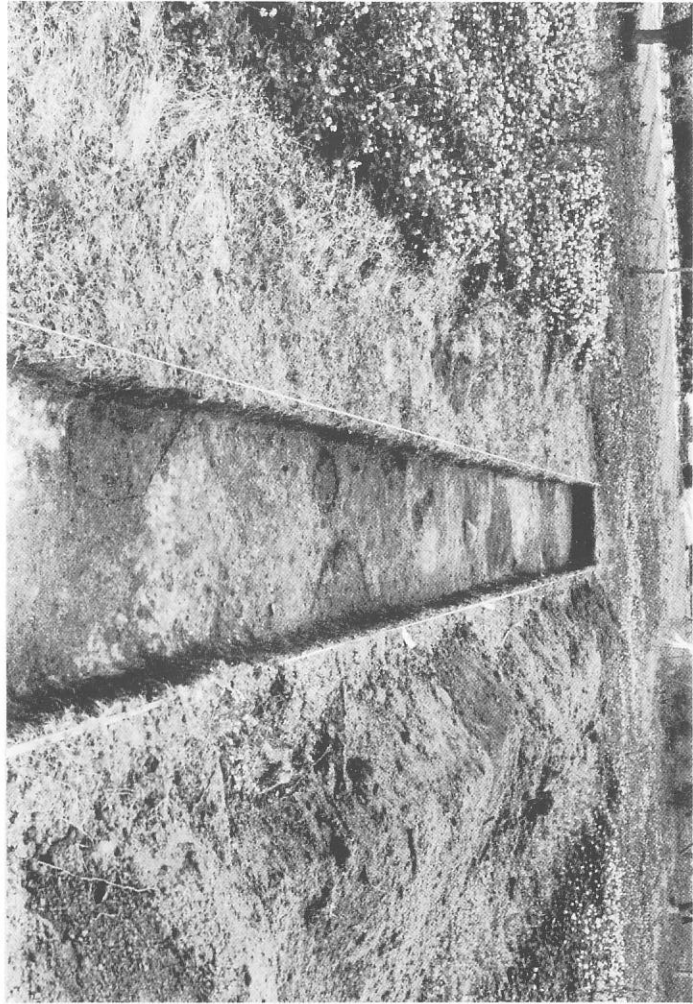
第13図 虫内 I 遺跡 ⑥トレンチ 捨場 2 の状況 (北東▶)



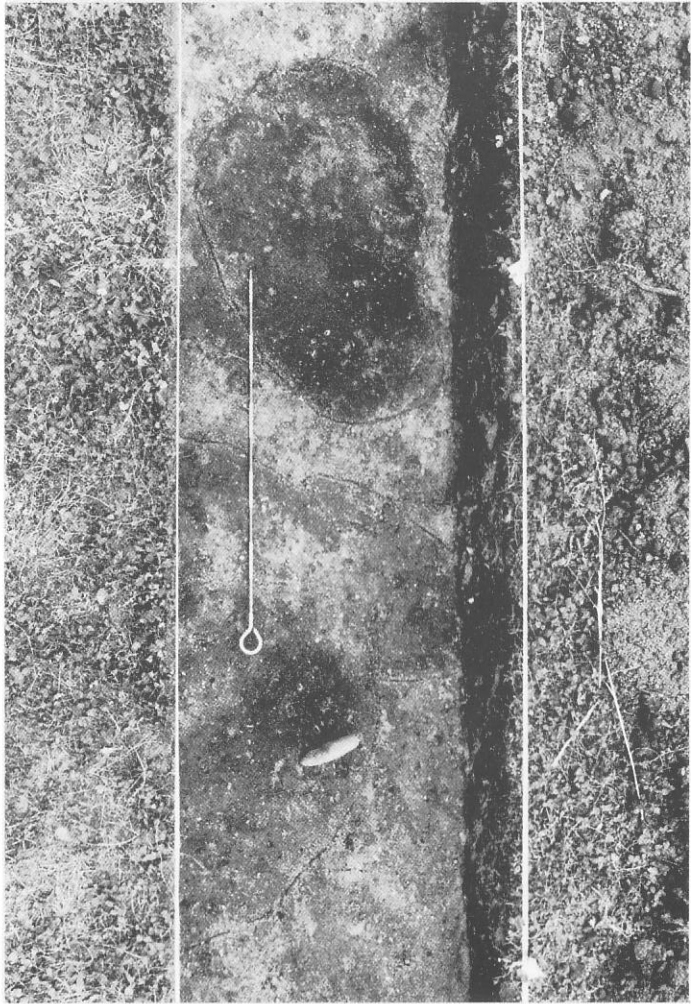
第14図 虫内I遺跡 ②トレンチ 捨場1の遺物出土状況(南東▶)



第15図 虫内I遺跡 ②トレンチ 捨場1の遺物包含層(南東▶)



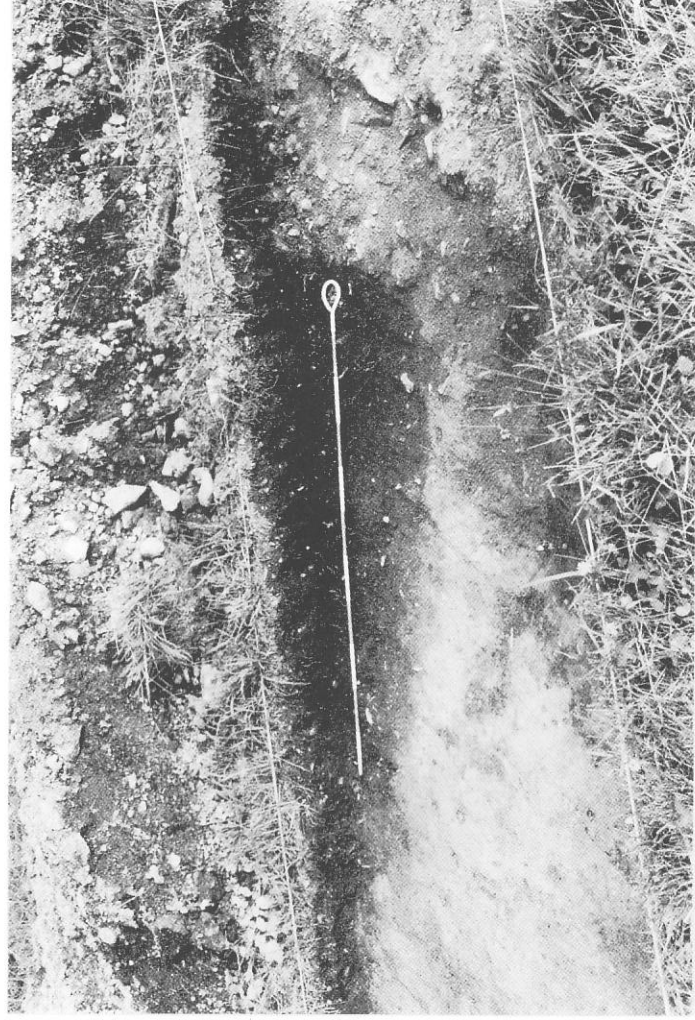
第16図 虫内I遺跡 ④トレンチ 土坑群検出状況(南西▶)



第17図 虫内I遺跡 ④トレンチ 土坑群検出状況(ピンポールは1m 北西▶)



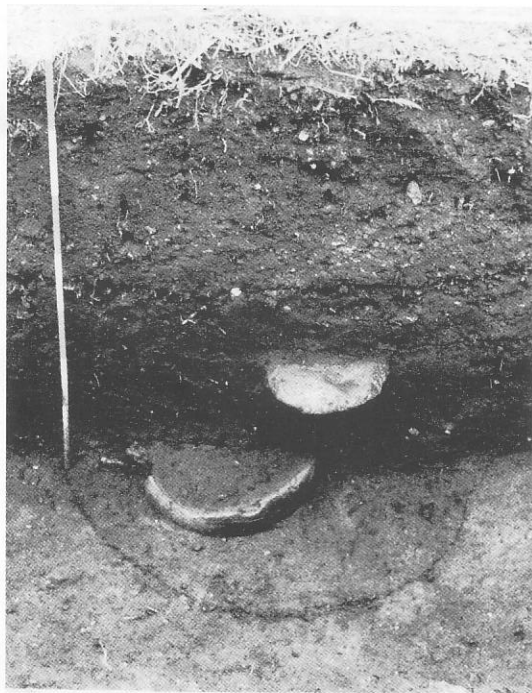
第18図 虫内I遺跡 ③トレンチ 土坑検出状況（北西▶）



第19図 虫内I遺跡 ⑥トレンチ 土坑検出状況（北西）



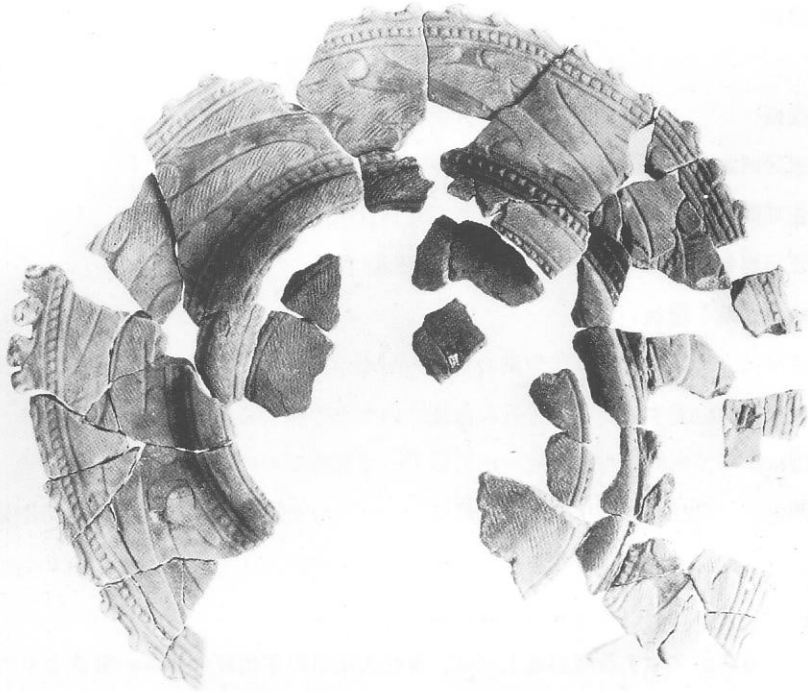
第20図 虫内I遺跡 ③トレンチ 土器埋設遺構検出状況（北東▶）



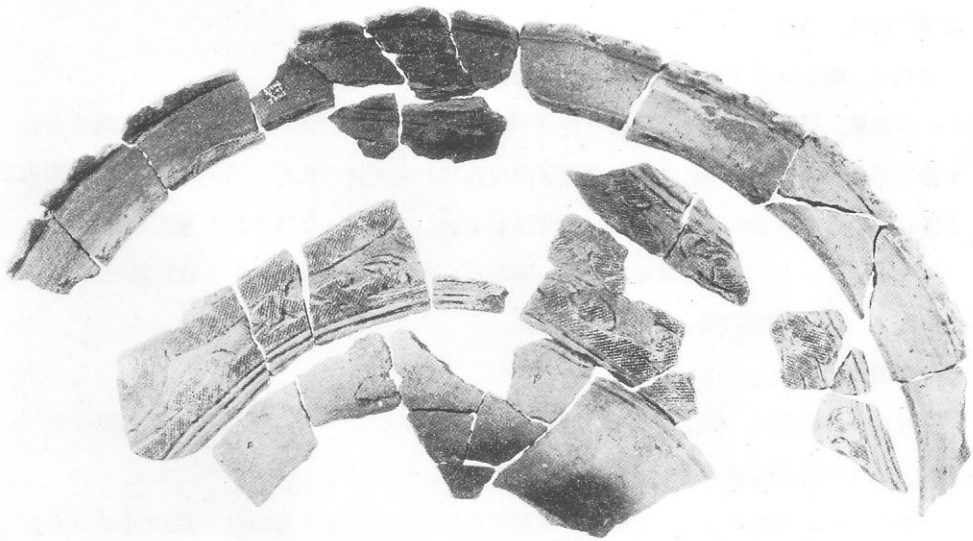
第21図 ⑥トレンチ 土器埋設遺構検出状況（北西▶）



第22図 ⑤トレンチ 土器(壺)埋設遺構検出状況（北西▶）



第23図 虫内 I 遺跡 ②トレンチ 捨場 1 出土土器



第24図 虫内 I 遺跡 ⑥トレンチ 捨場 2 出土土器



- 1 所在地 横手市大屋新町字新町36番地、外
- 2 工事区域内遺跡範囲 2.850㎡
- 3 調査期間 平成2年5月14日～5月23日
- 4 調査担当者 大野 憲司、佐藤 尚明
- 5 遺跡の立地と現況

遺跡は、横手盆地中央部東側の金峰山山地の支脈から北西方向に延びる中山丘陵地の付け根部分に位置する。この付近の山麓には水平的複合扇状地が発達しており、遺跡は、寺内川によって形成された小扇状地の扇央～扇端部にかけての微高地上に立地している。略北西方向に流れる寺内川によって形成された小扇状地上には、小さい起伏が流路に沿う形で幾つか見られ、縄文時代後期から晩期の遺跡が略南東－北西方向に連なっている。新町遺跡は、そのうちの北西側に位置する。

新町遺跡が立地する微高地上には、現在大屋新町字新町の集落が形成されている。調査区の現況は、リンゴを主とする果樹園と畑地で、平坦な面となっている。

基本的な土層は、第1層が黒褐色耕作土（20～35cm）、第2層が黒～黒褐色土（10～30cm）で遺物を僅かに含み、第3層が黒褐色～暗褐色漸移層（5～10cm）、第4層が地山である。地山土は地点によって異なり、砂利層あるいはにぶい黄橙色粘質土である。

## 6 範囲・時代・性格

調査は、幅1mのトレンチを合計21本設定して行った。

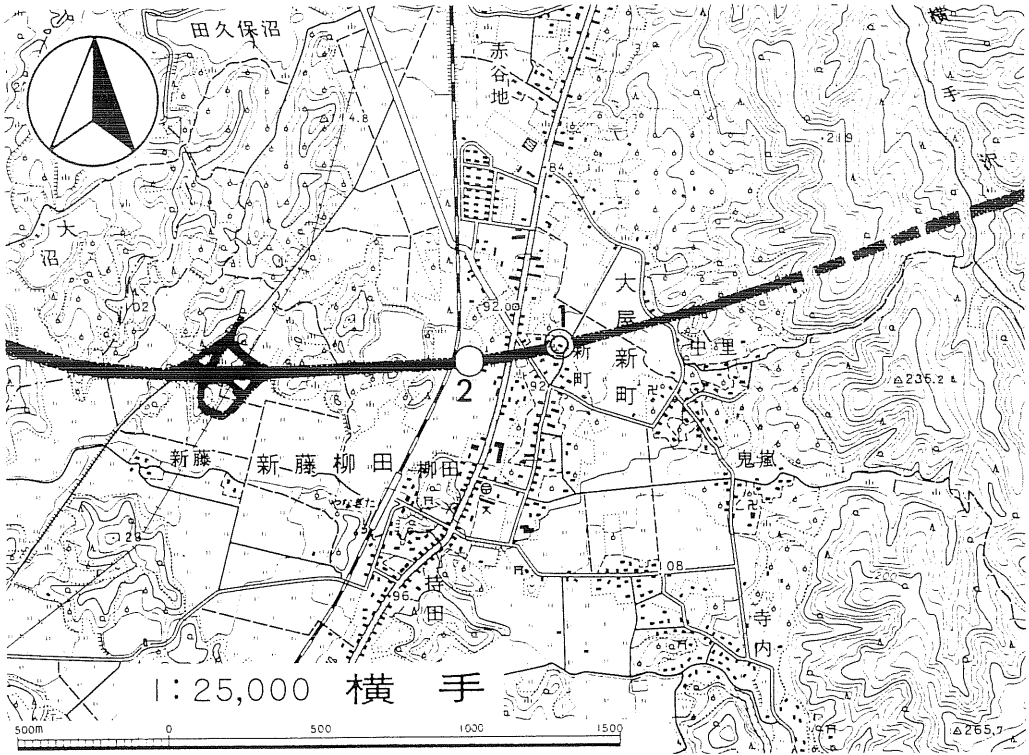
その結果、縄文時代の土坑4基と時期不明の柱穴様ピット数本が検出され、縄文時代の土器片と石器が出土した。土坑は調査区中央西部と北西部に散在しており、遺物は調査区全体に散見される。土坑の一つは、上面径が1m弱のフラスコ状土坑と考えられる。

以上のことから、本遺跡は縄文時代（晩期か）の集落の一部か若しくは貯蔵穴を伴うキャンプサイトのな遺跡であると考えられる。

## 7 参考事項

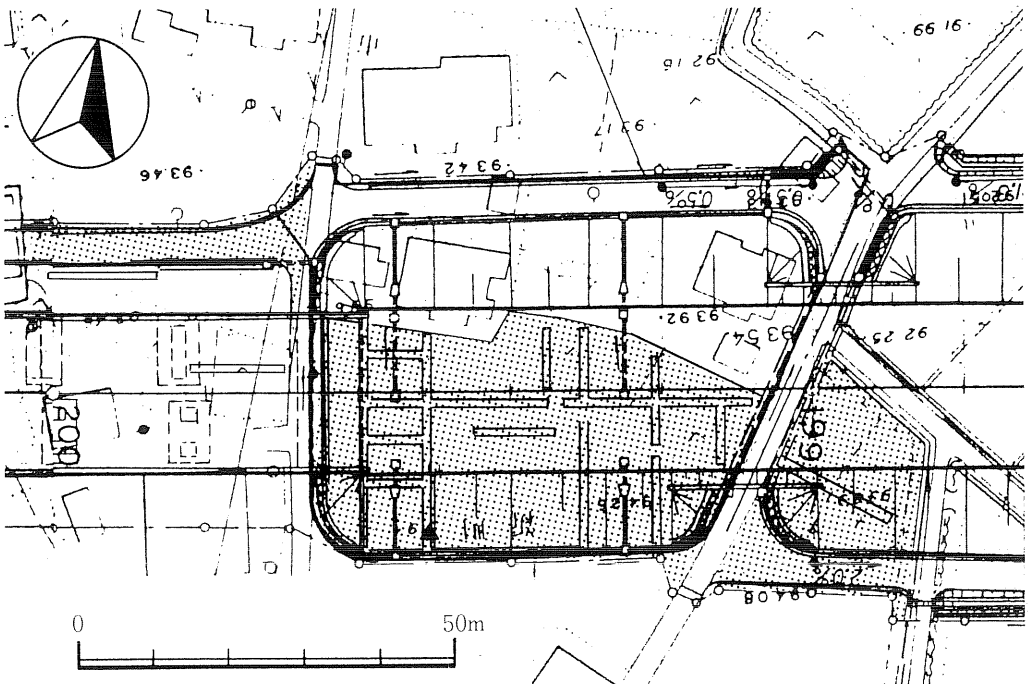
今回の調査範囲は、路線予定幅のおおよそ南側半分に限られる。残りの北側半分についても、この後範囲確認調査を実施する必要がある。

なお、今回範囲確認調査した部分の発掘調査を、平成2年8月25日～同10月18日に行った。



第25図 新町遺跡 位置図

1 新町遺跡 2 小松原遺跡



第26図 新町遺跡 工事区域内遺跡範囲図 (平成2年度分)



第27図 新町遺跡 遠景（北東▶）



第28図 新町遺跡 フラスコ状ピット検出状況（北▶）

## 2 秋田外環状道路建設事業

### 待入Ⅲ遺跡

1. 所在地 秋田市金足片田字待入505外
2. 工事区域内遺跡面積 5,300㎡ (範囲確認調査面積 16,280㎡)
3. 調査期間 平成2年4月18日～5月10日
4. 調査担当 庄内昭男、小林 克
5. 遺跡の立地と現況

本遺跡は、秋田市の北部にあり、県道大久保秋田線を北に進むと左手にみえる金足東小学校のすぐ南側にある。

遺跡は、南北に長い丘陵地の東斜面に立地しており、標高22～12mを測る。現況は、杉および雑木林となっている神社周辺をのぞいて、大部分が畑地であった。

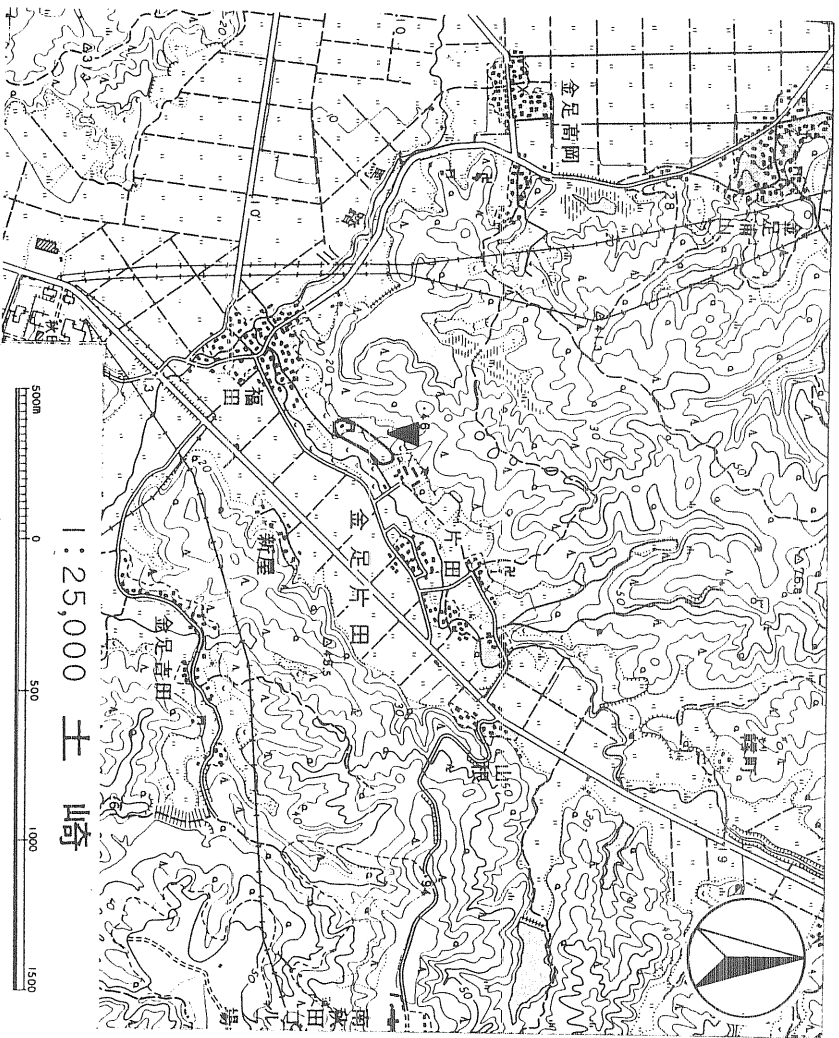
### 6. 範囲・時代・性格

本遺跡は『秋田県遺跡地図』に掲載された周知の遺跡であり、奈良時代から中世にかけての遺物の散布地とされている。

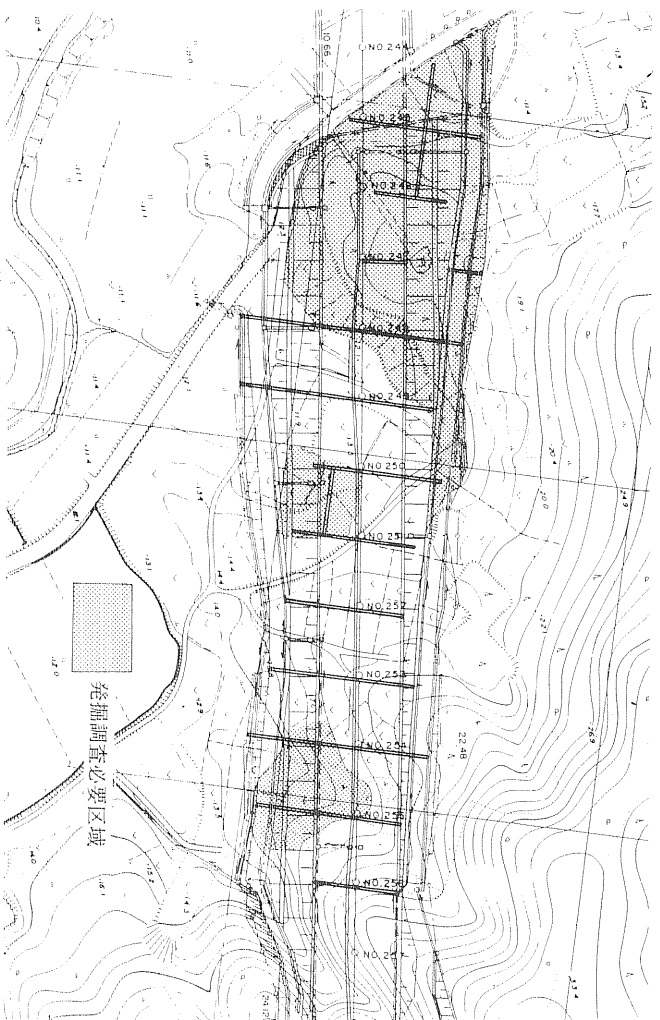
調査は、工事計画路線内に1m幅のトレンチを入れて行った(第30図参照)。その結果、計画杭NO,250杭東側で土坑、NO,253杭東側で火葬墓を検出した。出土遺物は赤焼き土器、須恵器が大部分であり、採集品として青磁碗の破片があった。ただし、大部分がNO,251杭より南側でみつかったもので、それより北側は少ない。

表土から遺構・遺物が確認できる面までの深さは、NO,247杭付近で20cm、NO,250杭付近で40cm、NO,254杭付近で10～15cmであるが、かつて開田による削平が行われているため、沢が入り込むNO,248～NO,251杭の間は1m以上の深さがある。

遺跡の年代は、出土遺物から平安時代後半から中世にかかると考えられる。



第29図 待入皿遺跡 位置図



第30図 待入皿遺跡 工事区域内遺跡範囲図



第31図 待入Ⅲ遺跡 近景（西▶）



第32図 待入Ⅲ遺跡 出土遺物

- 1 所在地 秋田市金足岩瀬字松館大平28-4  
南秋田郡昭和町大久保字元木山根25、外
- 2 工事区域内遺跡面積 11,500m<sup>2</sup>
- 3 調査期間 平成2年5月14日～5月31日
- 4 調査担当者 榮 一郎、小山内 透
- 5 遺跡の立地と現況

本遺跡は、秋田市黒川から北西にのびる元木山を北西端とする豊川丘陵の、西縁が舌状に張り出した部分に位置する。北側が一部昭和町にかかり、南側には周知の遺跡である松館遺跡がある。西側約80mに一般国道7号が走る。遺跡の立地する丘陵上面の標高は25～30m、周囲の低地との比高差23m前後である。

遺跡の現況は山林である。北東側は急傾斜で丘陵頂部に連続し、北側及び西側斜面は急勾配で、南側はやや緩やかである。また西側斜面は一部土取りされている。中央には南西側に開析された埋没谷があり、西側と北東及び南東部は相対的に高位部となっている。

## 6 範囲・時代・性格

調査必要範囲は、地形的にみて遺跡のほぼ全域におよぶと思われる。中央部の層序は、1層表土(厚さ10～20cm)、2層黒褐色土(厚さ30～50cm)、3層褐色土(厚さ10～30cm)、4層地山である。北側斜面では黒褐色土下に2層暗褐色土(厚さ20～40cm)が認められた。北東端部斜面には上部からの流れ込みとみられる砂質土が厚く堆積する。北東及び南東高位部では、削平の結果表土直下が地山となっている。また中央部の埋没谷は、部分的に厚さ10～20cmの地山土で盛土整地がなされていた。

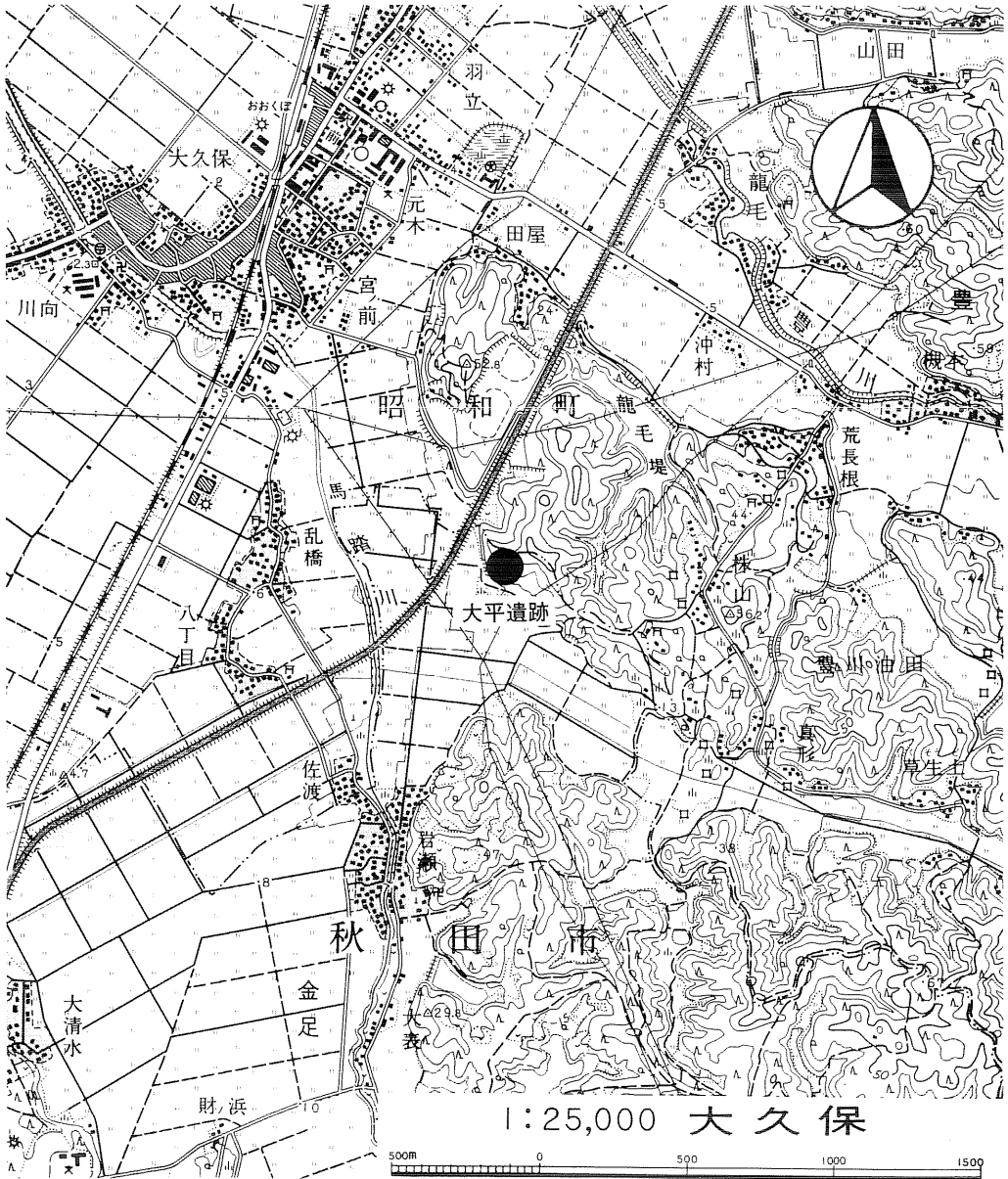
調査の結果、縄文時代の遺構は北側と南東部で竪穴住居跡3軒、土坑2基、焼土3基が地山面で検出された。遺物は縄文土器片(中期後葉・後期後葉)、石器(石鏃・石匙・スクレイパー・剥片)等が出土し、特に西側の高位部に多い。北側斜面では石器が集中して出土した。2～3層が縄文時代の遺物包含層である。

古代以降の遺構は主に南東部に分布し、地山面及び整地面で竪穴住居跡1軒、堀1条、溝2条、柱穴数基が検出された。堀は南東高位部の北東縁を区画すると思われる。遺物は主に南東部の黒褐色土中で土師器、須恵器が出土し、北側斜面で鉄滓が1点出土した。

このほかに西側斜面では時期不明の炭焼成遺構1基を検出した。

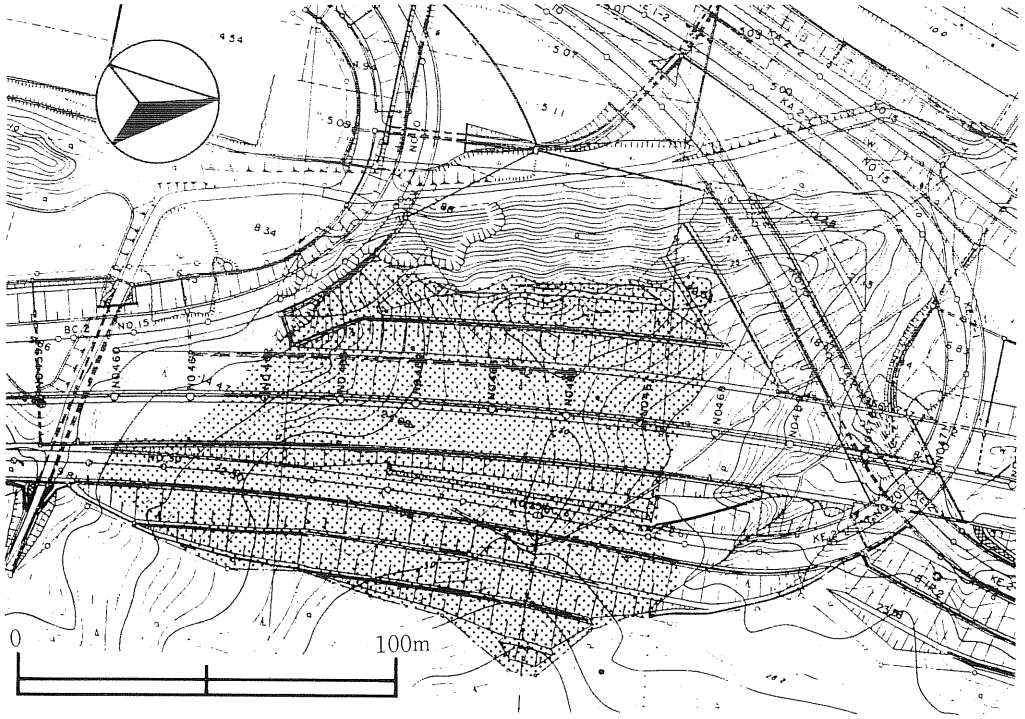
本遺跡は縄文時代と古代の複合遺跡である。縄文時代では遺構の分布からみて中央部を中心に集落が展開すると思われ、西側高位部でも遺物が多量に出土していることから遺構

が存在する可能性が高い。古代では遺構、遺物の分布からみて南東部を中心に集落が存在すると思われる。また、堀から西側南東部が整地され、古代の竪穴住居跡が削平されていること、整地面から掘りこまれている柱穴が存在すること、盛土整地下から土師器等が出土していることから、南東部周辺では中世の城館が構築されている可能性が考えられる。

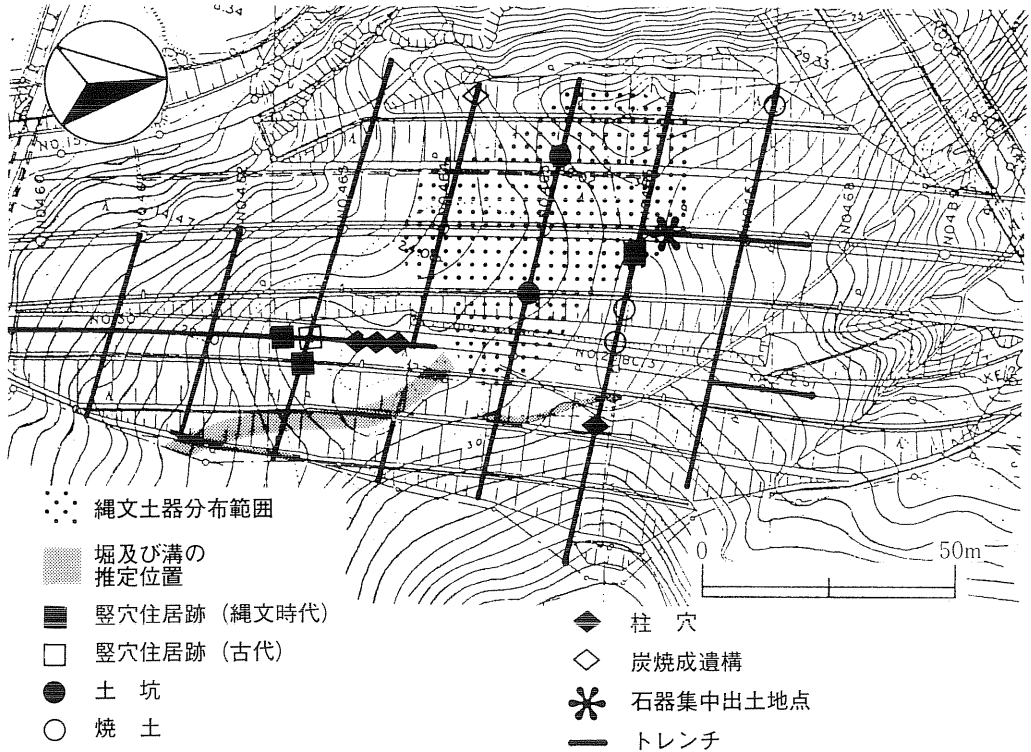


第33図 大平遺跡 位置図





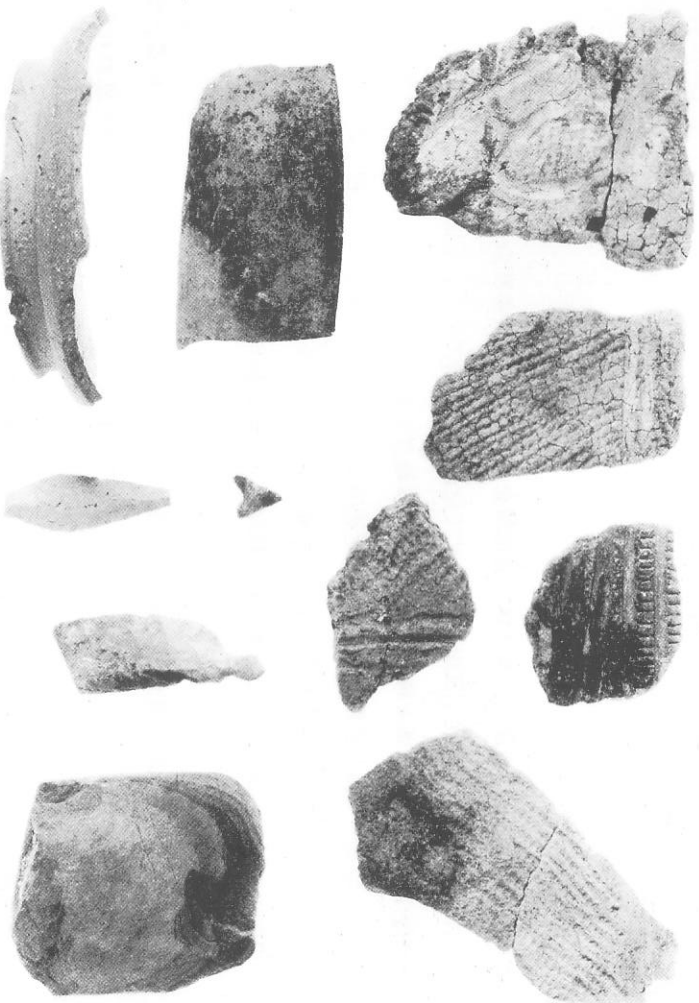
第34図 大平遺跡 工事区域内遺跡範囲図



第35図 大平遺跡 遺構・遺物分布図



第36図 大平遺跡 竪穴住居跡(古代)



第37図 大平遺跡 出土遺物

### 3 琴丘能代道路建設事業

#### はちまんだい 八幡台遺跡

- 1 所在地（A地点） 山本郡八竜町鶴川字八幡台98-5、外  
（B地点） 山本郡八竜町鶴川字八幡台24-3、外
- 2 工事区域内遺跡面積 1,500㎡（A地点 1,100㎡・B地点 400㎡）
- 3 調査期間 平成2年6月11日～6月15日
- 4 調査担当者 榮 一郎、小山内 透
- 5 遺跡の立地と現況

本遺跡は、一般国道7号線に沿って誘致された八竜工業団地の東側丘陵地にあり、能代市周辺の日本海沿岸に海岸線に平行に並ぶ砂丘と海成段丘の丘陵のうち、成合台地と呼ばれる標高約30mの海成段丘上に立地する。基盤層は潟西層と呼ばれる砂層である。遺跡からは直線距離で西約3.7kmで日本海、南西約2.7kmで旧八郎潟に至る。南側約400mには竪穴住居跡、フラスコ状土坑、貝層、人骨等を検出した県指定史跡萱刈沢貝塚がある。

遺跡は、前年度の調査によっておよそ200m離れたA・Bの2地点に分かれることが明らかになっていた。A地点は標高34m前後、現況は畑地および山林であり、B地点は標高20m前後で、現況は山林および畑地である。両地点とも山林から畑地、あるいは畑地から山林へ何回かの開墾が加えられている。

#### 6 範囲・時代・性格

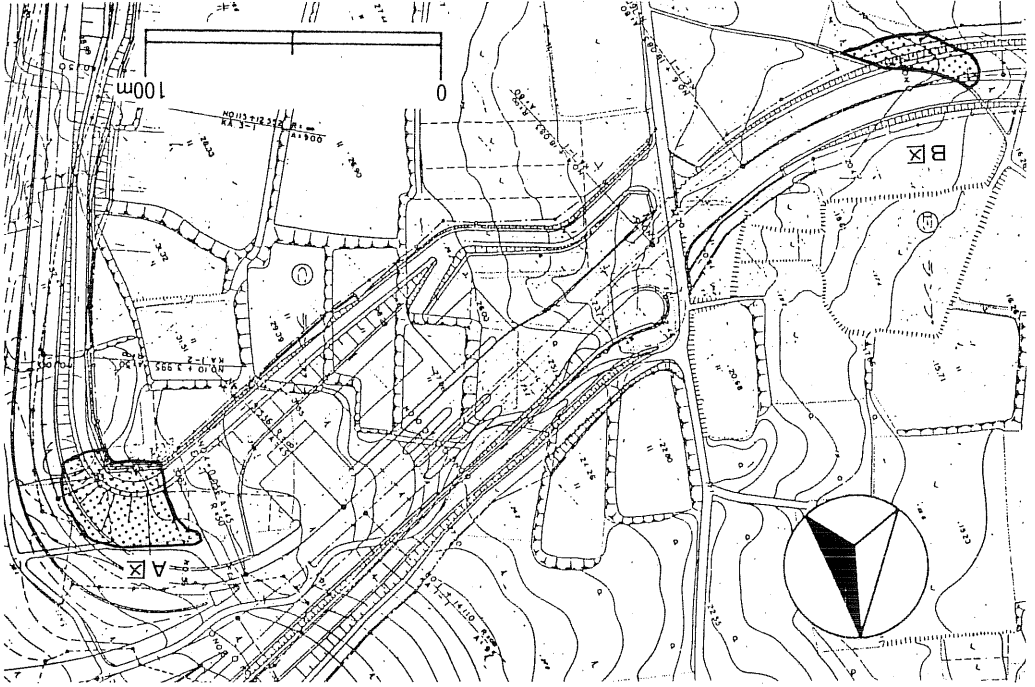
調査の結果、本遺跡の工事区域内発掘調査必要面積は、前年度の調査の結果確定しているA地点700㎡、B地点1,300㎡を合わせて全体で3,500㎡である。遺構はA地点で柱穴4基、B地点でTピット1基を検出した。遺物はB地点でスクレイパーが1点出土したのみである。A地点の東側とB地点の本年度確定範囲でのみ表土（耕作土）下に厚さ約10cmの黒色土、さらにその下に厚さ約20～30cmの黒褐色土が存在する。他は開墾による削平がかなりの範囲で認められ、現況で畑地部分の耕作土下は概ね地山であり、遺物包含層は消失したものである。

両地点とも前年度の調査時に出土した遺物からみて縄文時代後期の遺跡と思われる。また、B地点ではTピットが検出されたことから狩猟場として利用されたものと思われる。

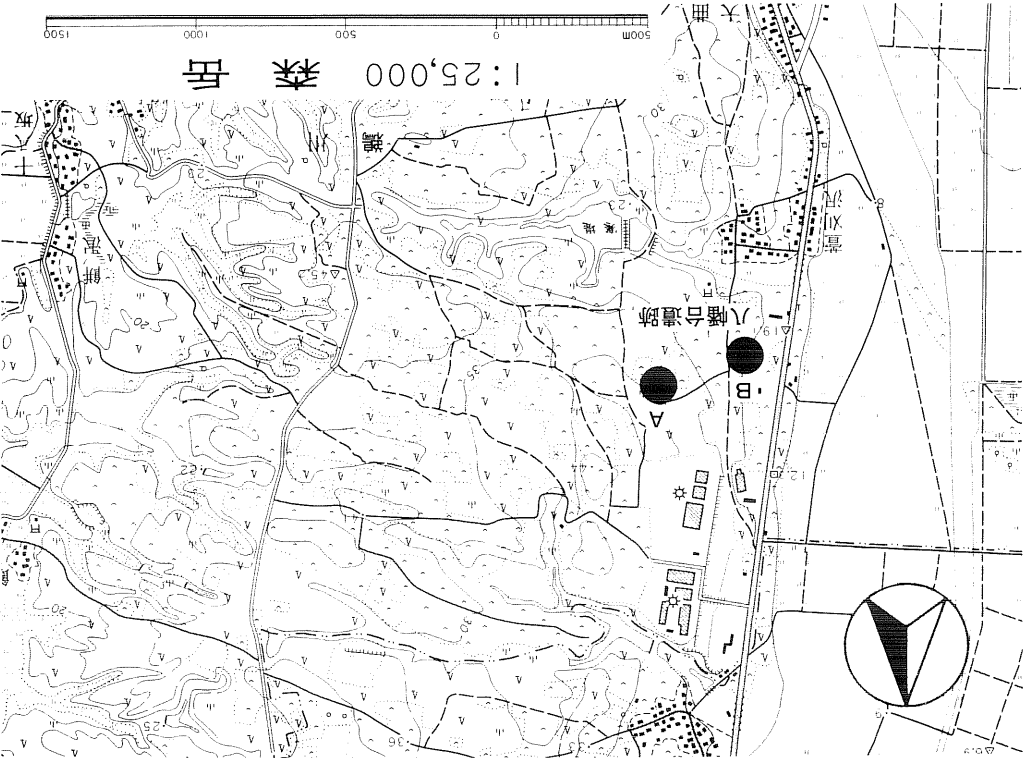
#### 7 参考事項

本遺跡は、平成2年8月21日～10月31日まで発掘調査を実施した。

第39図 八幡台遺跡 工事区内遺跡範囲図 (平成2年度)



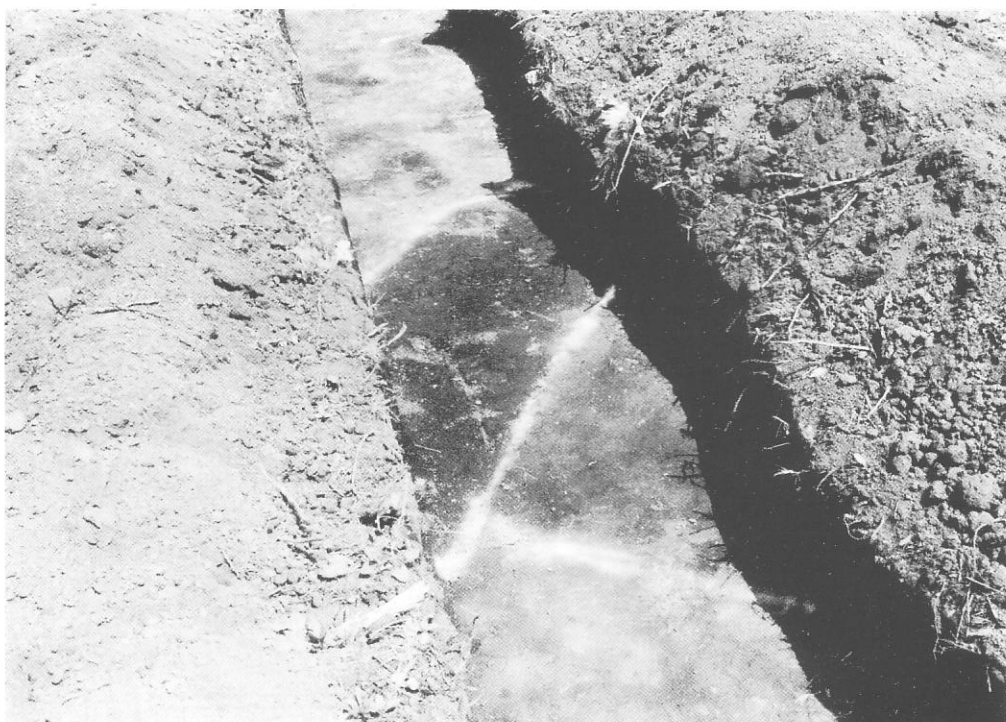
第38図 八幡台遺跡 位置図



八幡台遺跡



第40図 八幡台遺跡 A地点 柱穴



第41図 八幡台遺跡 B地点 Tピット

## 4 国道103号道路改良工事

さんのうたい  
 山王岱遺跡

- |             |                    |
|-------------|--------------------|
| 1 所在地       | 秋田県大館市餌釣字山王岱12-2、外 |
| 2 工事区域内遺跡面積 | 10,200㎡            |
| 3 調査期間      | 平成2年10月22日～10月23日  |
| 4 調査担当者     | 利部 修、谷地 薫          |
| 5 遺跡の立地と現況  |                    |

山王岱遺跡は大館盆地南東部の河岸段丘上にある。大館盆地東側には高森(標高592.5m)を中心に、標高300～500m級の早壮年期の高森山地があり、盆地周縁には米代川とその支流によって形成された段丘が発達している。遺跡は、5面に区分される段丘面のうち中位の第3段丘上に立地する。遺跡付近では、遺跡北東方向の秋葉山(標高328.5m)南麓から高森山地を下刻して西流する餌釣沢が、段丘の東及び南側を開析して西側の古代米代川沖積地へ流れ込み、遺跡の占地する段丘面は南に頂点をもつ三角形状を呈する。標高は77～78m、段丘と西側の沖積地との比高は17～20m、餌釣沢内沖積面とは12～14mを測る。現況は山林である。

## 6 範囲・時代・性格

調査の結果、空堀3条、土塁1条、平安時代の竪穴住居跡1軒、土師器、縄文土器(中期)、石器等を検出した。工事区域内遺跡範囲の南側に東西方向に3条の空堀があり、そのうちの最も北側の空堀には土塁が伴う。これらが、2次にわたる山王岱遺跡発掘調査で検出された空堀とつながり、館跡の北限を区切る施設と考えられる。空堀より北は、山王台遺跡発掘調査で検出された平安時代の集落跡の一部と考えられる。また、遺跡範囲全体に縄文時代の遺物が散布している。本遺跡は、空堀と土塁によって区画された館跡、平安時代の集落跡、縄文時代の遺物散布地が複合する遺跡である。

調査地の南側は『秋田県の中世城館』では日吉神社を中心とする単郭の餌釣館とされていたが、1987年、1989年の山王岱遺跡発掘調査によってさらに空堀が4条検出され複数の郭から成ることが判明した。また、1988年の山王台遺跡発掘調査によって調査地の北東側には十和田a火山灰降下以前に営まれた平安時代の集落跡が発見された。1990年発刊の『秋田県大館市遺跡詳細分布調査報告書』ではこれらを踏まえて、山王岱遺跡、山王台遺跡を含めた範囲を餌釣館としている。1990年には本遺跡の南東約350mにある餌釣遺跡が発掘

## 山王岱遺跡

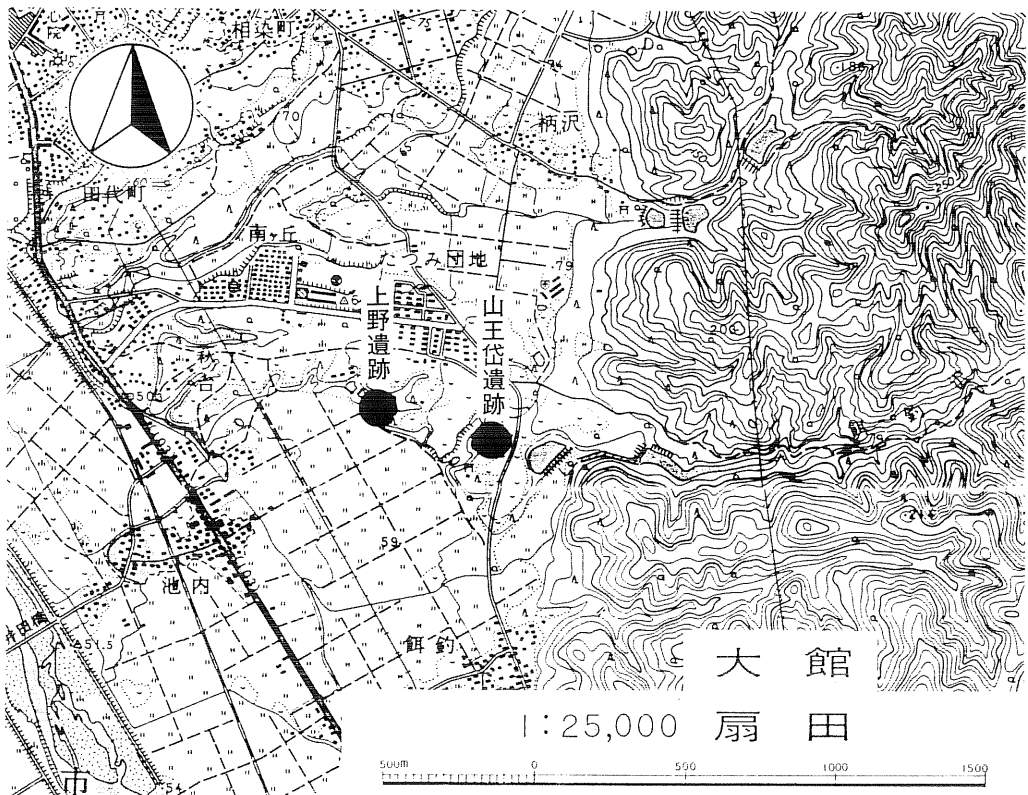
調査され、新たに複数の郭からなる館跡が発見された。本遺跡の名称は『秋田県の中世城館』時点の認識を踏襲したものであり、餌釣館の位置と遺跡名の妥当性は、本遺跡の発掘調査結果も踏まえて総合的に検討する必要がある。

## 7 参考事項

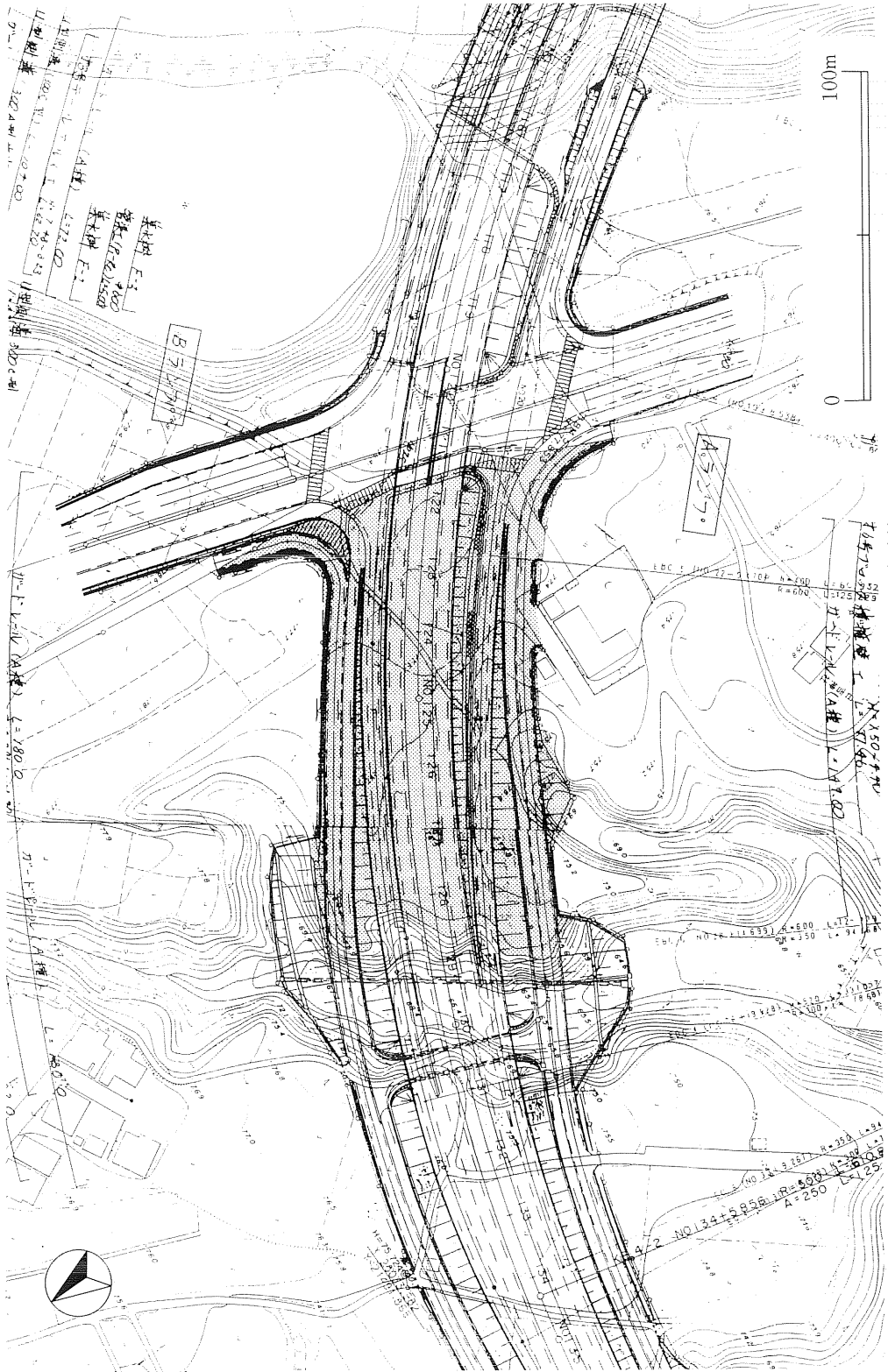
今回の範囲確認調査は、1987年に範囲確認調査を実施した後に工事計画の変更があり、その結果、新たに範囲確認調査が必要となった部分(道路拡幅部分)について行ったものである。第43図の工事区域内遺跡範囲は、1987年と今回の範囲確認調査で判明した遺跡範囲である。

### 関係文献

- 秋田県教育委員会 『秋田県の中世城館』 秋田県文化財調査報告書第86集 1981(昭和56年)
- 秋田県教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第155集 1987(昭和62年)
- 秋田県教育委員会 『国道103号大館南バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査概報 - 山王岱遺跡 -』 秋田県文化財調査報告書第170集 1988(昭和63年)
- 秋田県教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第174集 1988(昭和63年)
- 大館市教育委員会 『大館市山王台遺跡発掘調査報告書』 1990(平成元年)
- 大館市教育委員会 『秋田県大館市遺跡詳細分布調査報告書』 1990(平成元年)



第42図 山王岱遺跡・上野遺跡位置図



第43図 山王岱遺跡 工事区域内遺跡範囲図



山王岱遺跡



第44図 山王岱遺跡 現況 (東▶)



第45図 山王岱遺跡 空堀 (南西▶)

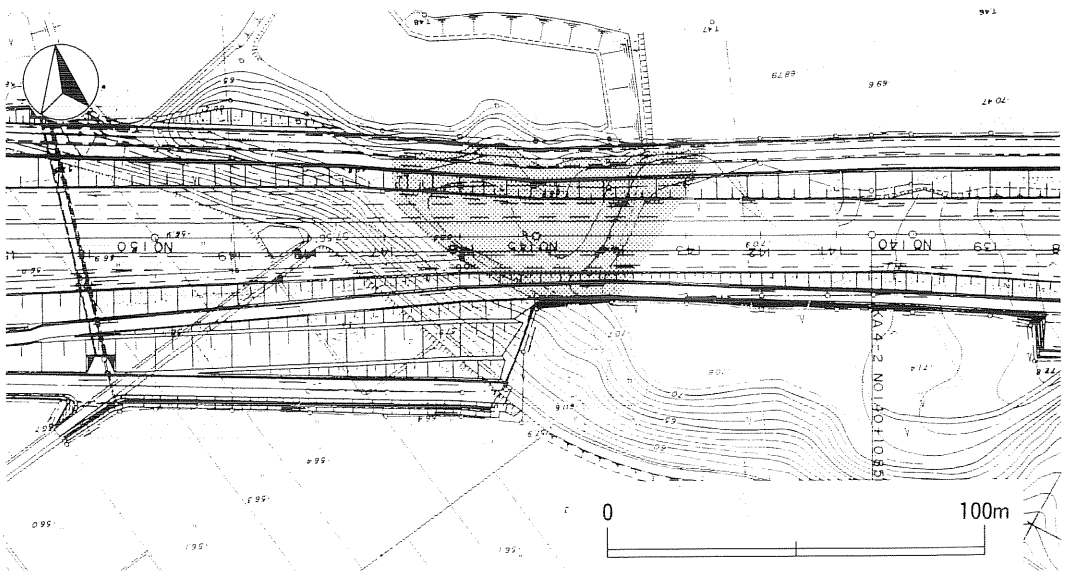
うえの  
上野遺跡

- 1 所在地 秋田県大館市池内字上野270、外
- 2 工事区域内遺跡面積 2,400㎡
- 3 調査期間 平成2年10月18日～10月19日
- 4 調査担当者 利部 修、谷地 薫
- 5 遺跡の立地と現況

上野遺跡は大館盆地南東部の河岸段丘(第3段丘)上にある。盆地周縁には米代川とその支流によって形成された段丘が発達し、この段丘は多くの小谷によって開析され舌状台地が連なっており、本遺跡もその中の1つに立地している。標高は68～71m、段丘と南側の沖積地との比高は12～15mである。現況は山林である。

- 6 範囲・時代・性格

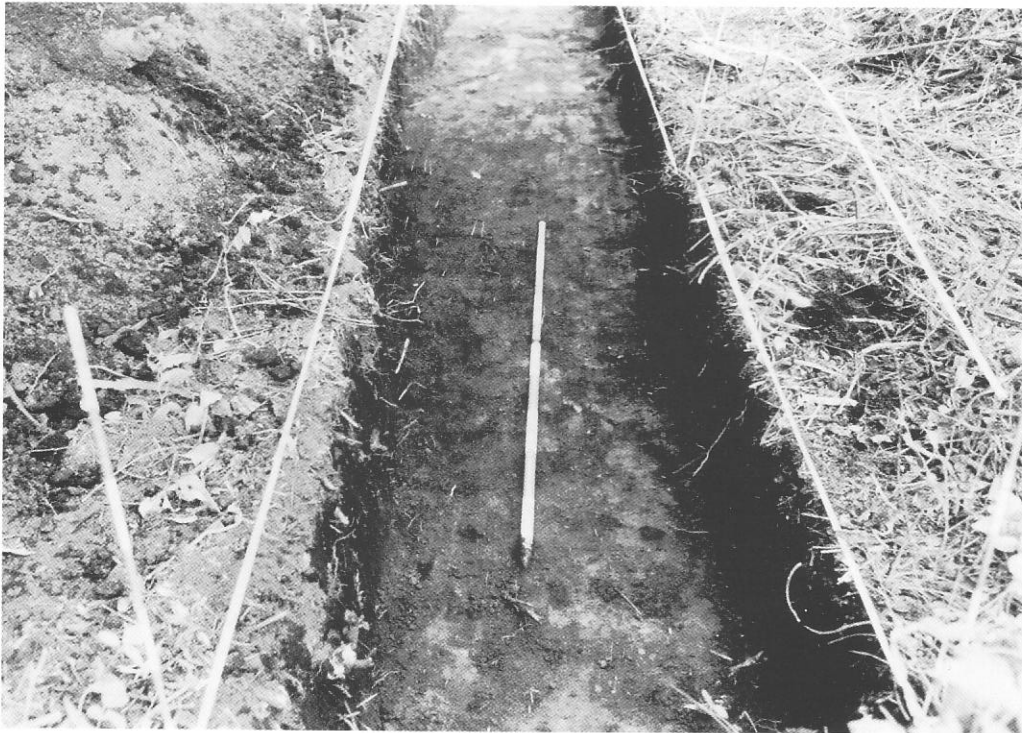
調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡2軒、土坑2基、溝1条の遺構、土師器、縄文土器、石器等の遺物を検出した。縄文土器は中期後葉で、本遺跡は該期の集落跡である。調査区内の東側には南北方向の沢が入り、沢埋土の大湯浮石層より上位の部分から平安時代の土師器が出土した。調査区外に集落があり、沢に捨てられたか、自然に流入したものと考えられる。縄文時代の遺跡範囲はこの沢より西側の台地縁辺部と推測される。



第46図 上野遺跡 工事区域内遺跡範囲図



第47図 上野遺跡 遠景（南▶）



第48図 上野遺跡 竪穴住居跡（西▶）

## 5 曲田地区農免農道整備事業

## 家ノ後遺跡

- |   |           |                    |
|---|-----------|--------------------|
| 1 | 所在地       | 秋田県大館市曲田字家ノ後96-2、外 |
| 2 | 工事区域内遺跡面積 | 2,800㎡             |
| 3 | 調査期間      | 平成2年10月29日～11月1日   |
| 4 | 調査担当者     | 利部 修、谷地 薫          |
| 5 | 遺跡の立地と現況  |                    |

家ノ後遺跡は大館市南部の河岸段丘上にある。大館盆地周縁には米代川とその支流によって形成された段丘が発達し第1段丘～第5段丘に区分されているが、遺跡は中位の第3段丘上に立地する。遺跡の東側では北方の鞍掛山(標高484.4m)東麓から高森山地を下刻して南流する沢が段丘を開析して南側の米代川沖積地へ流れ込み、西側にもこれに平行して小谷が入っている。遺跡の占地する段丘面は、これらの沢に東西を区切られた舌状台地となっている。台地上はほぼ平坦で標高は91～92m、台地と南側の沖積地との比高差は約14mを測る。現況は山林である。

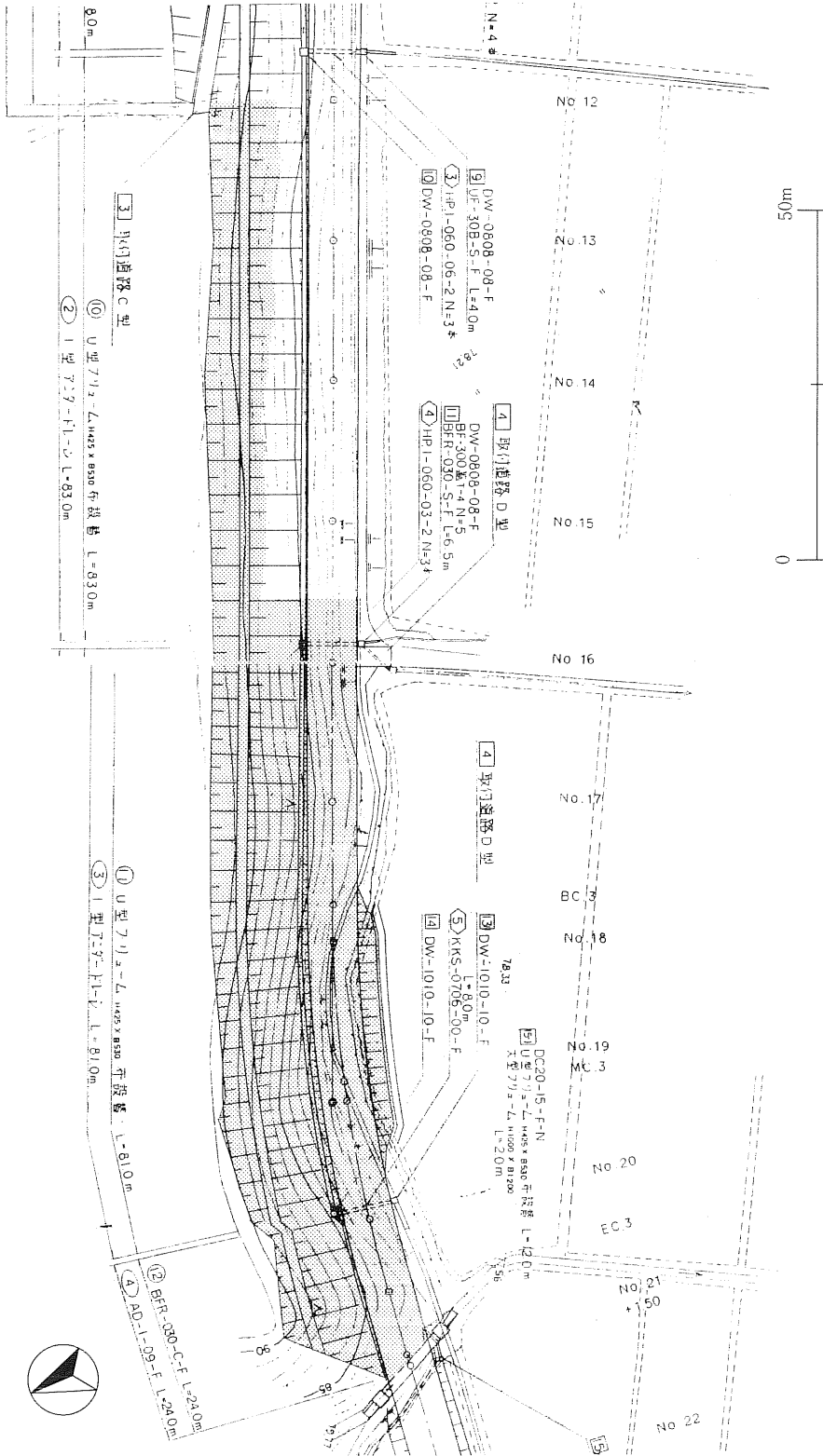
## 6 範囲・時代・性格

調査地は、台地上平坦面の縁辺部の一部と段丘崖である急斜面である。調査の結果、台地上で縄文時代の竪穴住居跡3軒、土坑24基を検出した。また、段丘崖の急斜面には多量の縄文土器が出土する捨場が形成されていた。出土した土器の多くは縄文時代後期後葉から晩期前葉のもので、竪穴住居跡はいずれも縄文時代後期後葉のものである。台地上の土坑は長軸が1m前後の楕円形のもの15基、円形のもの9基である。楕円形土坑は、長軸方向が東-西または南東-北西に集中する。これらは、県内各地で検出されている縄文時代晩期の土壙墓と考えられる。

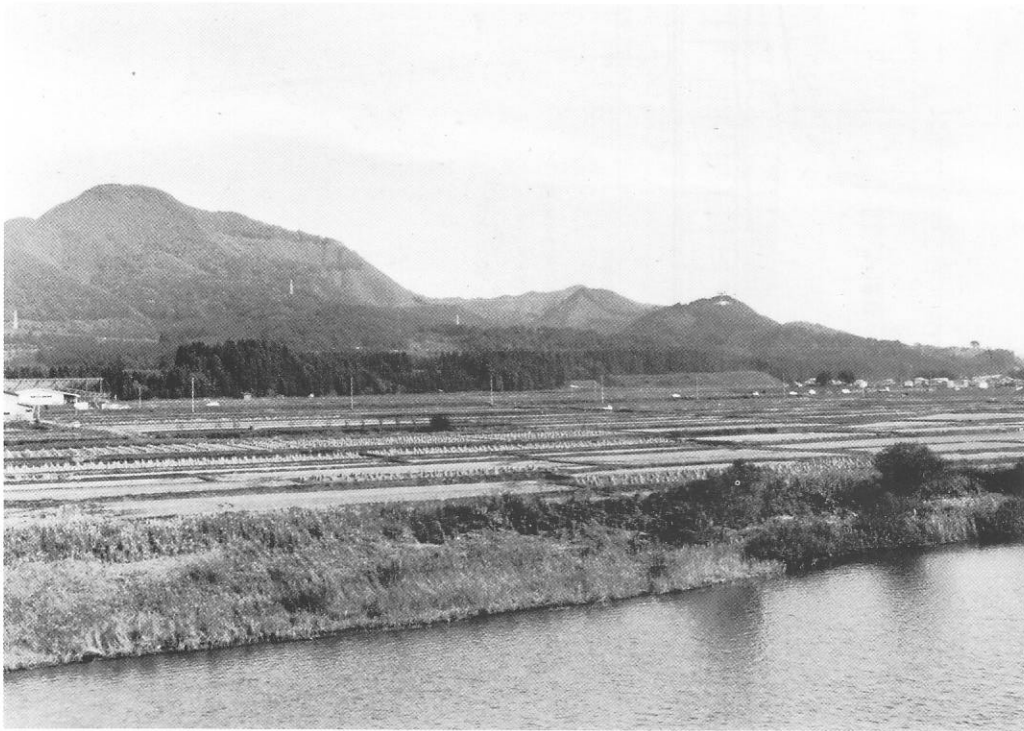
以上から、本遺跡は縄文時代後期後葉の集落跡と晩期前葉の土壙墓群が重複する遺跡である。遺跡範囲は台地上の全体と南側斜面の一部と推定される。そのうちの南側斜面と台地縁辺部の一部が工事予定区域である。この範囲には竪穴住居跡、土坑、土壙墓が密集していると考えられる。また、今回の調査範囲では282㎡の試掘トレンチから3,386点の土器、石器類が出土し、工事区域内のみの発掘調査によっても40,000点ちかい多量の遺物が出土することが予想される。



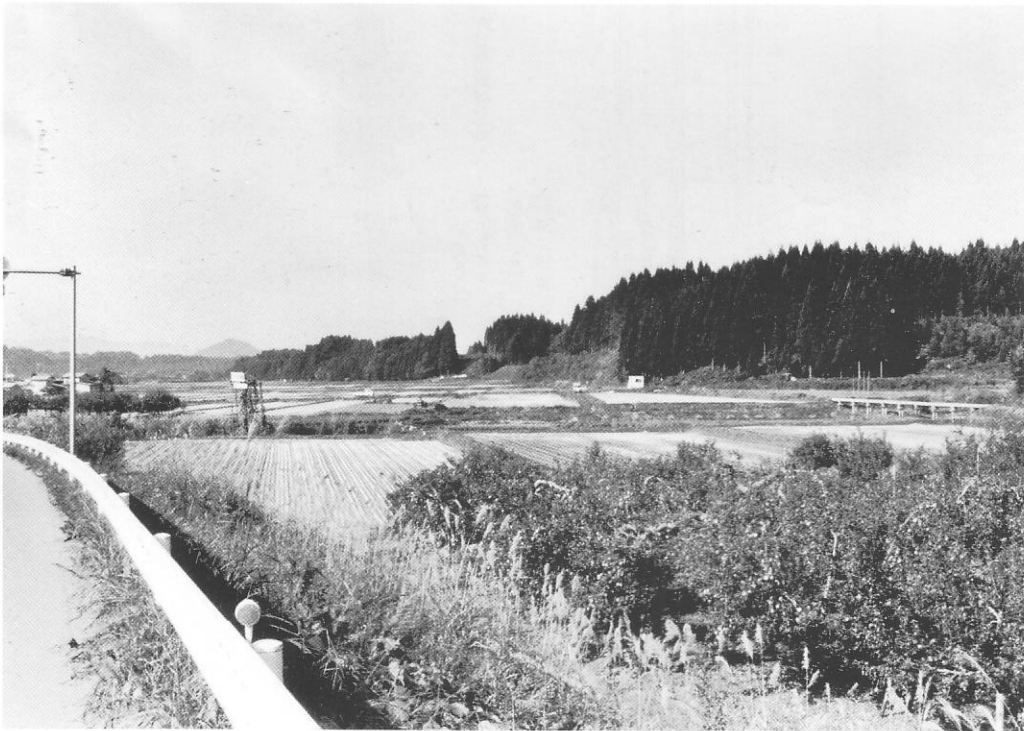
第49図 家ノ後遺跡・上聖遺跡 位置図



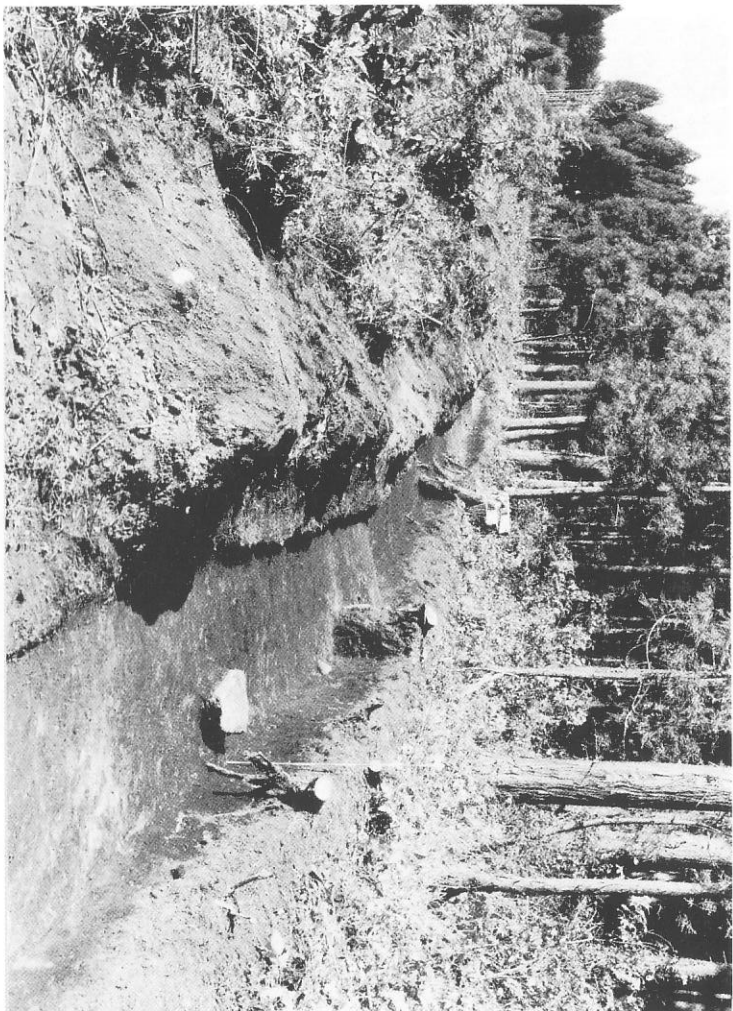
第50図 家ノ後遺跡 工事区域内遺跡範囲図



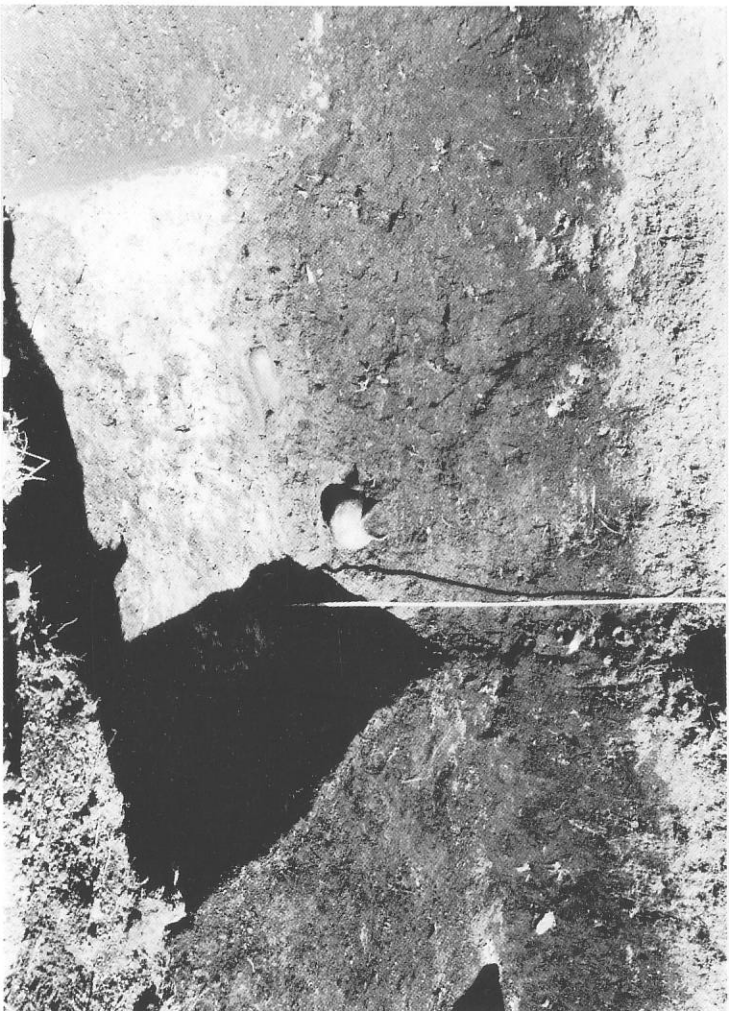
第51図 家ノ後遺跡・上聖遺跡 遠景（南西▶）



第52図 家ノ後・上聖遺跡 遠景（南東▶）



第53図 家ノ後遺跡 竪穴住居跡 (南東▶)

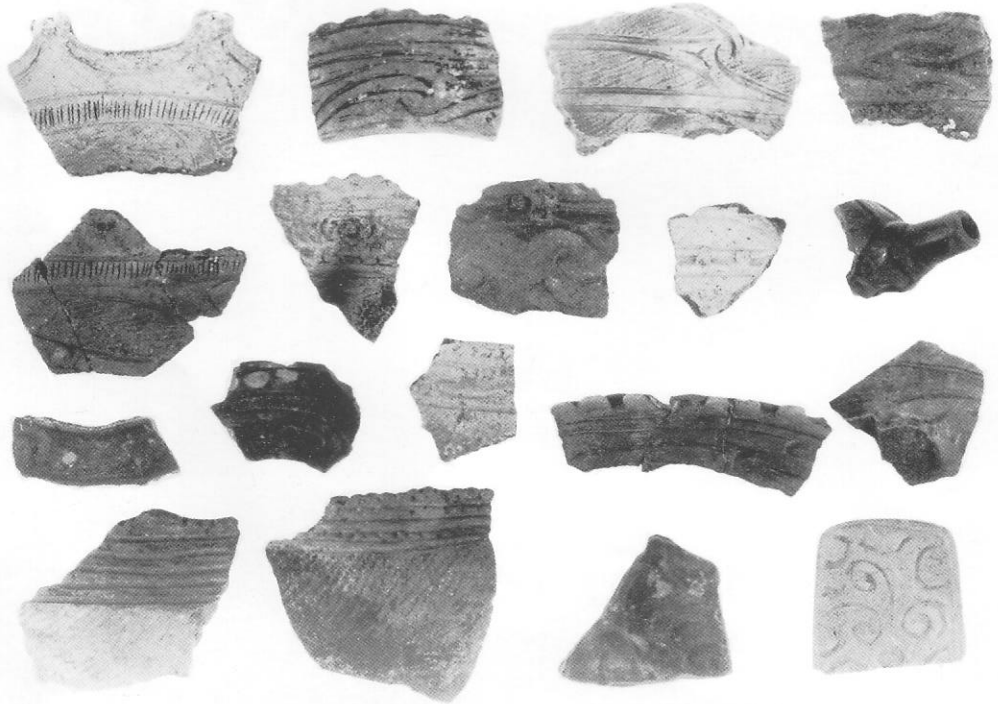


第54図 家ノ後遺跡 注口土器出土状況 (南西▶)





第55図 家ノ後遺跡 斜面の調査状況（東▶）



第56図 家ノ後遺跡 出土遺物（縄文土器・岩版）

上聖遺跡

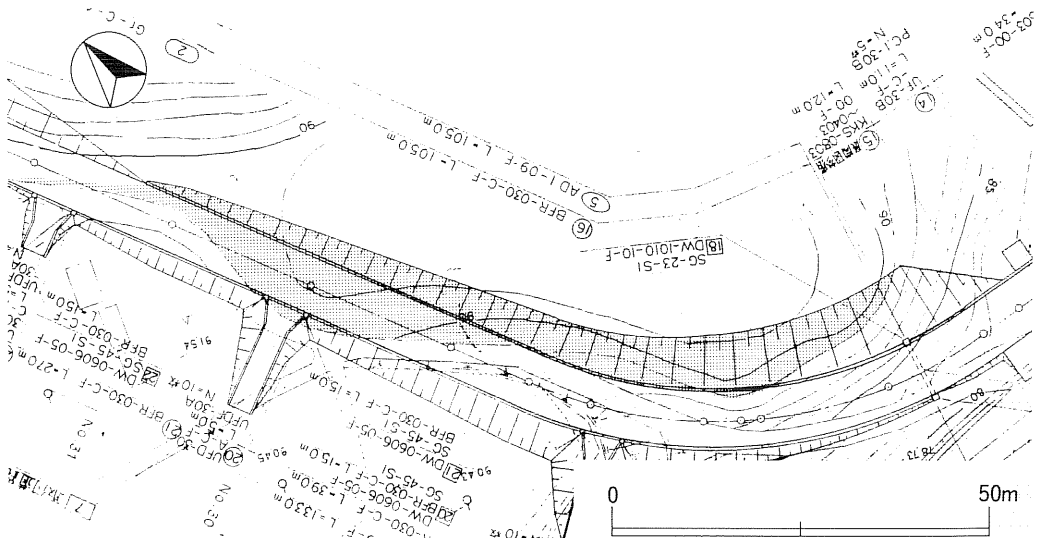
- 1 所在地 秋田県大館市曲田字上聖3-2、外
- 2 工事区域内遺跡面積 760㎡
- 3 調査期間 平成2年10月24日～10月25日
- 4 調査担当者 利部 修、谷地 薫
- 5 遺跡の立地と現況

上聖遺跡は、大館市南部の河岸段丘（第3段丘）上にある。遺跡の占地する段丘面は、東側が小侵食谷によって北西から南東に斜めに開析され、南東に向かって張り出す舌状台地となっている。台地上はほぼ平坦で標高は91～92m、台地と南側の沖積地との比高差は約15mを測る。現況は山林である。

6 範囲・時代・性格

調査の結果、土坑7基、焼土1カ所、縄文土器、石器類等を検出した。縄文土器は中期後葉のものである。焼土は台地の突端部にあり、焼土内から大型の縦型石匙が出土した。調査地の中央には幅約15m、深さ約2mの埋没谷が入る。

本遺跡は縄文時代中期後葉の集落跡の可能性もあるが、台地上の平坦部に大きな埋没谷が入ることから大規模な集落跡とは考えにくく、土坑群と少数の住居跡もしくは炉跡からなる遺跡と推定される。舌状台地全体が遺跡の範囲と思われるが、調査地の中央に台地を切り崩して農道が通り、その西側は果樹園による削平と攪乱を受けている。工事区域内遺跡範囲は台地上の農道より東側の部分である。



第57図 上聖遺跡 工事区域内遺跡範囲図



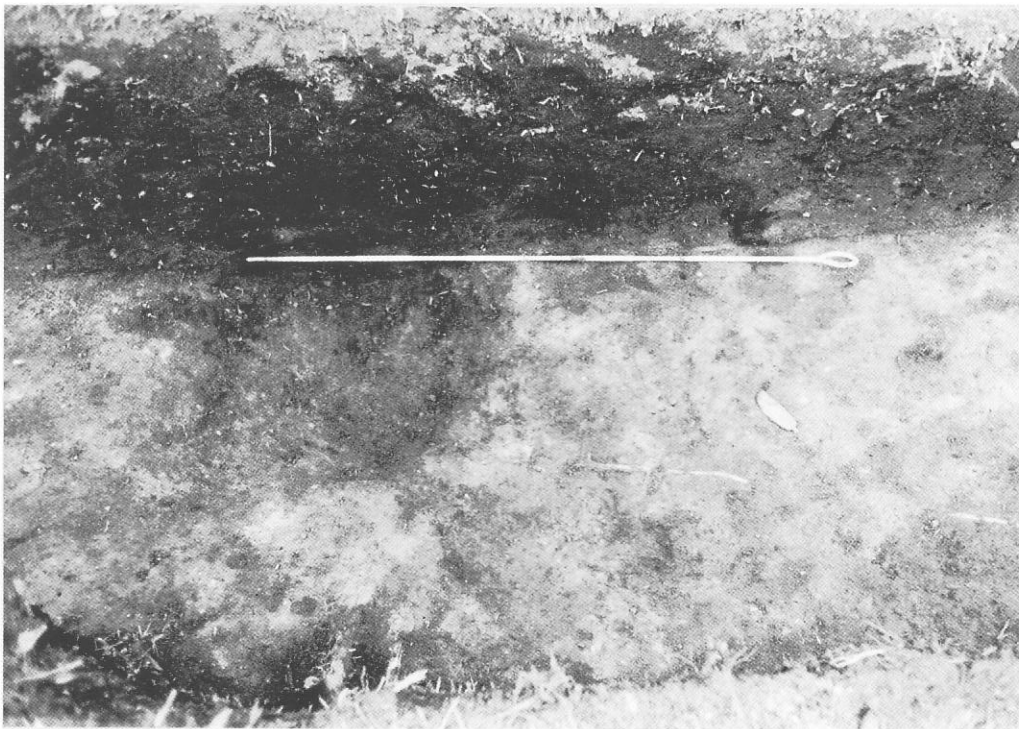
第58図 上聖遺跡 近景 (東▶)



第59図 上聖遺跡 現況 (西▶)



第60図 上聖遺跡 土坑（南西▶）



第61図 上聖遺跡 焼土遺構と土坑（南▶）

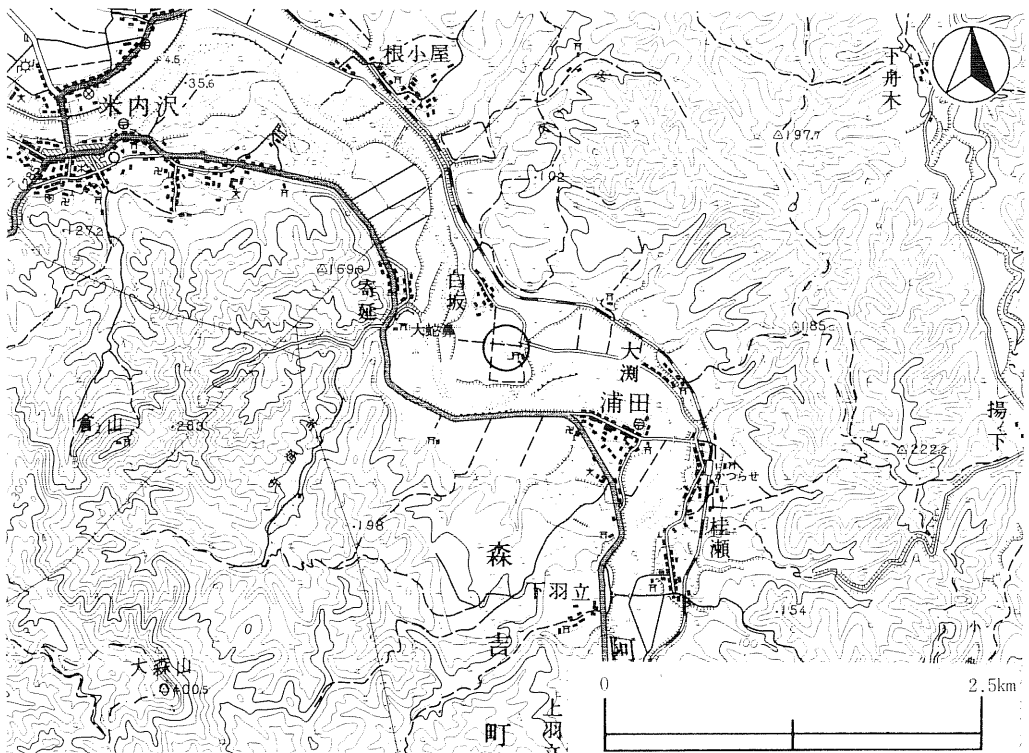
## 6 県営圃場整備事業

しらさぎ  
白坂遺跡

- 1 所在地 北秋田郡森吉町浦田字上岱70、外
- 2 工事区域内遺跡面積 54,000㎡
- 3 調査期間 平成2年10月22日～11月9日
- 4 調査担当者 武藤祐浩、高橋忠彦、栗澤光男、石川恵美子、佐藤尚明
- 5 遺跡の立地と現況

白坂遺跡は、阿仁町方面から北流し森吉町浦田地区で大きく蛇行を始める阿仁川右岸の台地上に立地している。遺跡のある台地は、阿仁川によって形成された段丘で、遺跡内では北側の広い部分で標高50～52m、南側の阿仁川に面した部分で標高42～45mの二面の段丘面が確認できる。

現況は、北側から阿仁川に向かって緩く傾斜する斜面を削って造成された平坦な水田と畑である。



第62図 白坂遺跡 位置図

## 6 範囲・時代・性格

平成2年度の範囲確認調査の対象範囲は、圃場整備事業計画面積220,000㎡のうちの東側およそ100,000㎡である。調査の結果、遺跡の面積としては54,000㎡であるが、昭和初期の開田事業によって遺物包含層の一部が全面にわたって削平されていることが分かった。また、遺跡の元地形は、南北に数条の小さい沢が入り込んだ緩く起伏する地形であったことが判明した。従って下記に述べる各地域のⅠ層以下の層厚には部分的に差がある。

遺跡内北側の地域では、縄文時代晩期前葉の配石遺構および捨て場などの遺構群の他、同時期の土器・石器が多数検出されている。また平安時代の土師器も出土している。この地域の基本層位はⅠ層黒色（10YR2/1、層厚20cm）の耕作土で、遺物も含まれる。Ⅱ層は黒褐色土（10YR2/2、層厚15cm）で遺構確認面であると同時に遺物の包含層でもある。Ⅲ層は黒色土（10YR1.7/1、層厚10～30cm）でⅡ層ほど多くはないが遺物を包含している。Ⅳ層は黄褐色（10YR5/6）のシルト質の地山である。

南側では、縄文時代後期前葉の遺構群と同時期の土器・石器が出土している。これら後期の遺構群の中で土壙は、上面から覆土中にかけて大型の自然礫を入れた袋状の土坑で、おそらくは土壙墓と考えられるものである。その他土器埋設遺構も検出している。

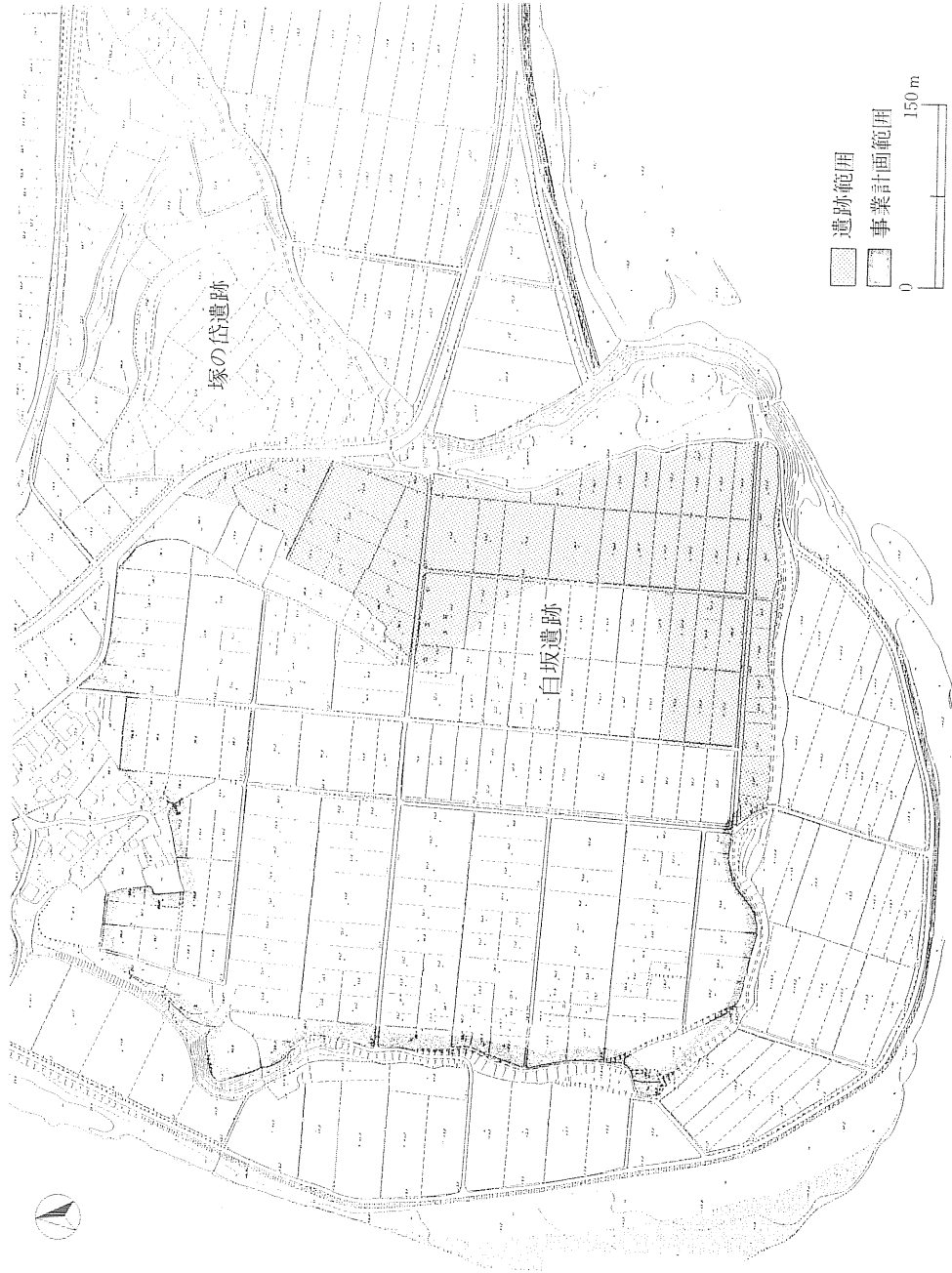
基本層位は、Ⅰ層が耕作土、Ⅱ層が黒褐色土（7.5YR3/2、層厚20cm）で、上面で土坑上面の礫の頭部を確認できる。Ⅲ層は黒褐色土（7.5YR2/1、層厚10～30cm）で、上面で遺構の確認ができる。地山のⅣ層はシルト質の褐色土（7.5YR4/4）で、袋状の土坑の底面はこの層まで達している。

また北側と南側の間部分では、詳細な時期が不明な縄文時代の土坑を検出している。以上から、白坂遺跡は縄文時代後期前葉と晩期前葉、および平安時代の複合遺跡であり、特に北側では縄文時代晩期の配石遺構群や捨て場、南側の阿仁川に面した区域には後期の土壙墓群が広がっているものと考えられる。

## 7 参考事項

白坂遺跡は、昭和51年（1976）秋田県教育委員会発行の『秋田県遺跡地図』と、昭和52年（1977）秋田県発行の『秋田県史一考古編一』に所収されている。

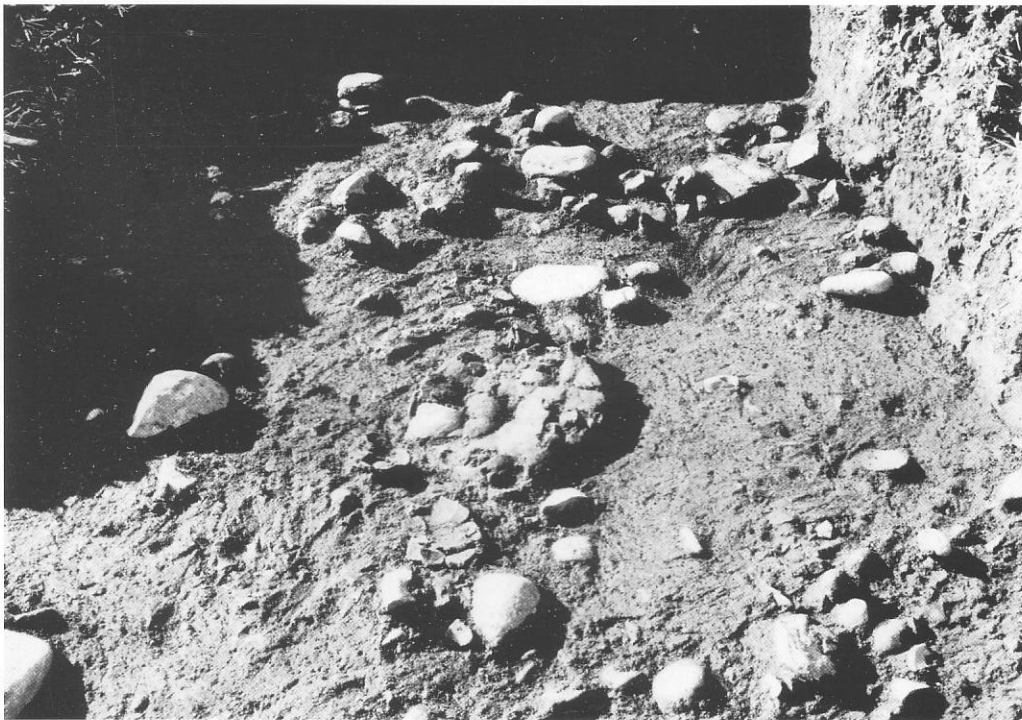
また、白坂遺跡の道路を隔てた東側の台地（標高53.5mで畑地）には塚の岱遺跡があり、縄文時代晩期の土偶や注口土器などが出土している（『秋田県遺跡地図』）。



第63図 白坂遺跡 事業区域内遺跡範囲図



第64図 白坂遺跡 調査区全景（北▶）

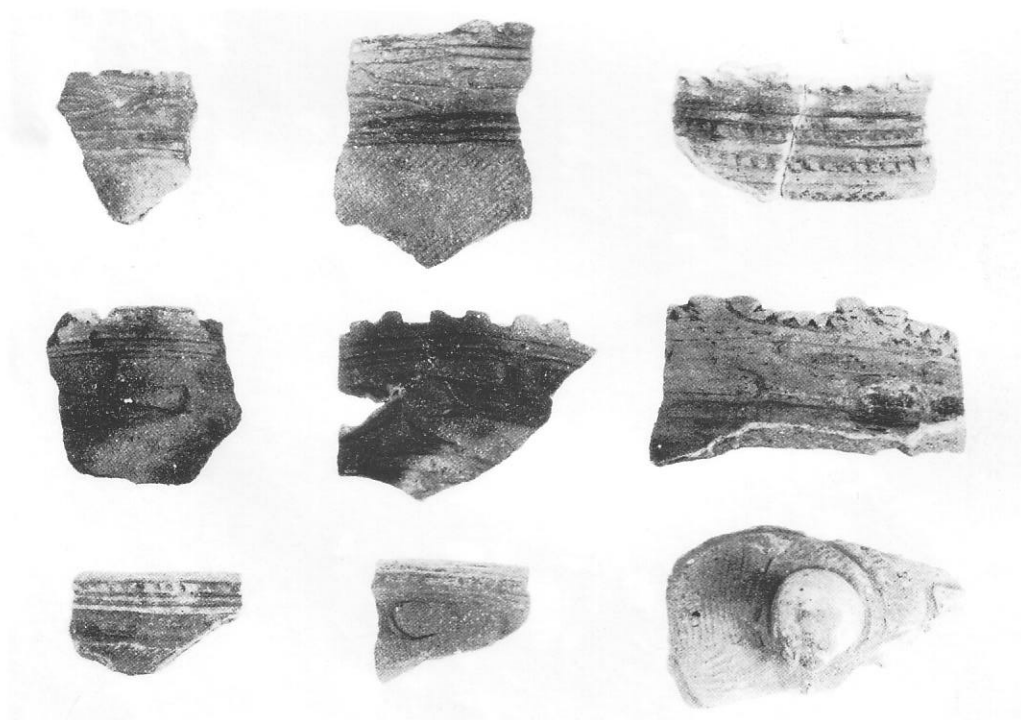


第65図 白坂遺跡 Bトレンチ遺物出土状況（南▶）

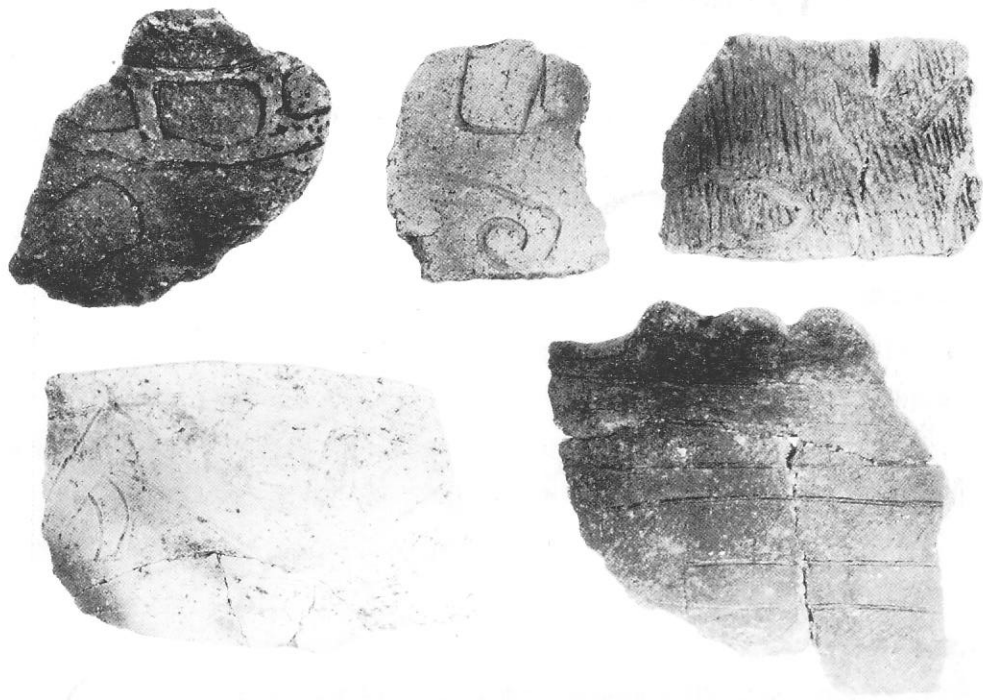




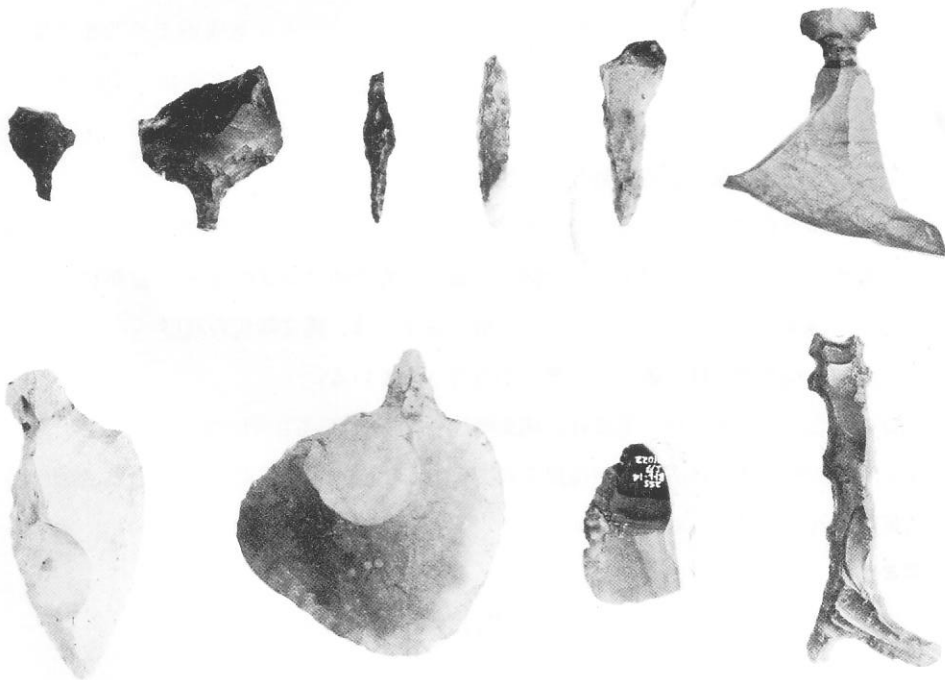
第66図 白坂遺跡 Sトレンチ土坑群(東)



第67図 白坂遺跡 出土土器



第68図 白坂遺跡 出土土器



第69図 白坂遺跡 出土石器

## 7 秋田ふるさと村建設事業

### たくぼした 田久保下遺跡

- 1 所在地 横手市婦気大堤字田久保下62-1
- 2 工事区域内遺跡面積 1,400㎡
- 3 調査期間 平成2年4月16日～4月19日
- 4 調査担当者 桜田 隆, 柴田陽一郎
- 5 遺跡の立地と現況

遺跡は、横手市街地の南西に、南北に広がる中山丘陵の中央部東端の小丘陵北東斜面に所在する。この斜面は、昭和30年代中頃に果樹園（りんご園）造成のため、上部が広い範囲で削平されている。北側には農道を挟み郷土館窯跡の位置する小丘陵があり、東側には沖積地（水田）が広がっている。

#### 6 範囲・時代・性格

斜面とその下方の平坦面1,400㎡が、調査区内における遺跡の範囲で、須恵器窯跡2基・竪穴状遺構2基・土坑1基を検出した。

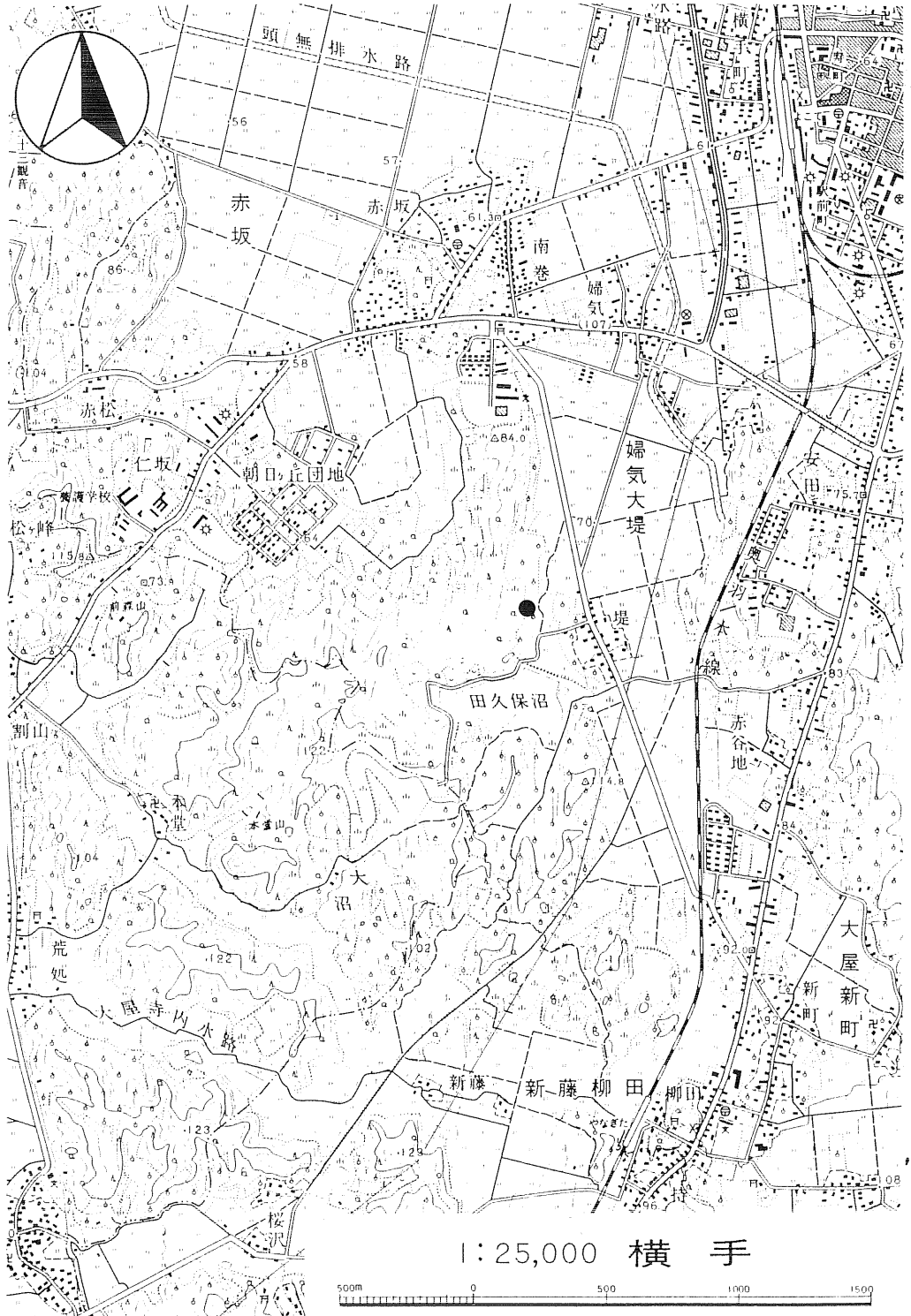
丘陵北東斜面は、果樹園を造成する際に広い範囲で地山まで削平されているが、平安時代の須恵器窯跡2基・竪穴状遺構2基を検出した。この箇所は造成前まで凹地となっていたらしいが、造成により上方からの排土が逆に盛土されて、土層堆積は、Ⅰ：盛土15～25cm、Ⅱ：炭化物混入黒褐色土20～25cm、Ⅲ：地山となっている。

斜面下方の平坦面で、古墳時代の土師器（坏）を出土する土坑1基を検出した。この平坦面は、現在北側の農道となっている区域が沢だったことから、隣接地を削平して埋め立て、削平したところには斜面からの排土を盛土したためにできたものと言われ、地山上に厚さ12～54cmの盛土層が見られる。この盛土層中には、縄文時代の石器（スクレイパー）・平安時代の須恵器（坏・蓋・壺・甕）が包含されている。

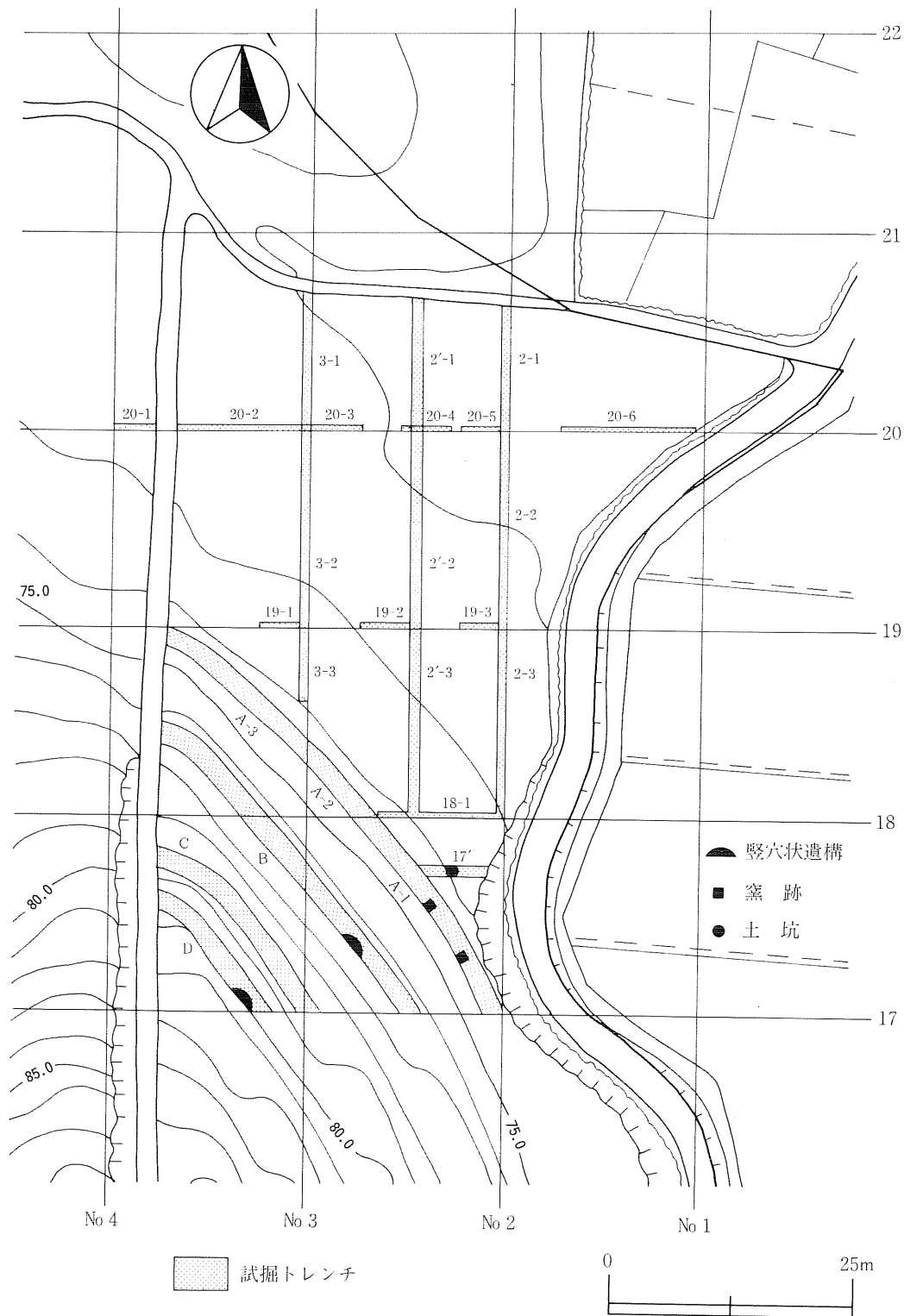
このことから、田久保下遺跡は、縄文時代・古墳時代にも生活の場となったが、工房跡と推定される竪穴状遺構と窯跡が検出されていることから、平安時代の須恵器生産の場として使用されたと考えられる。

#### 7 参考事項

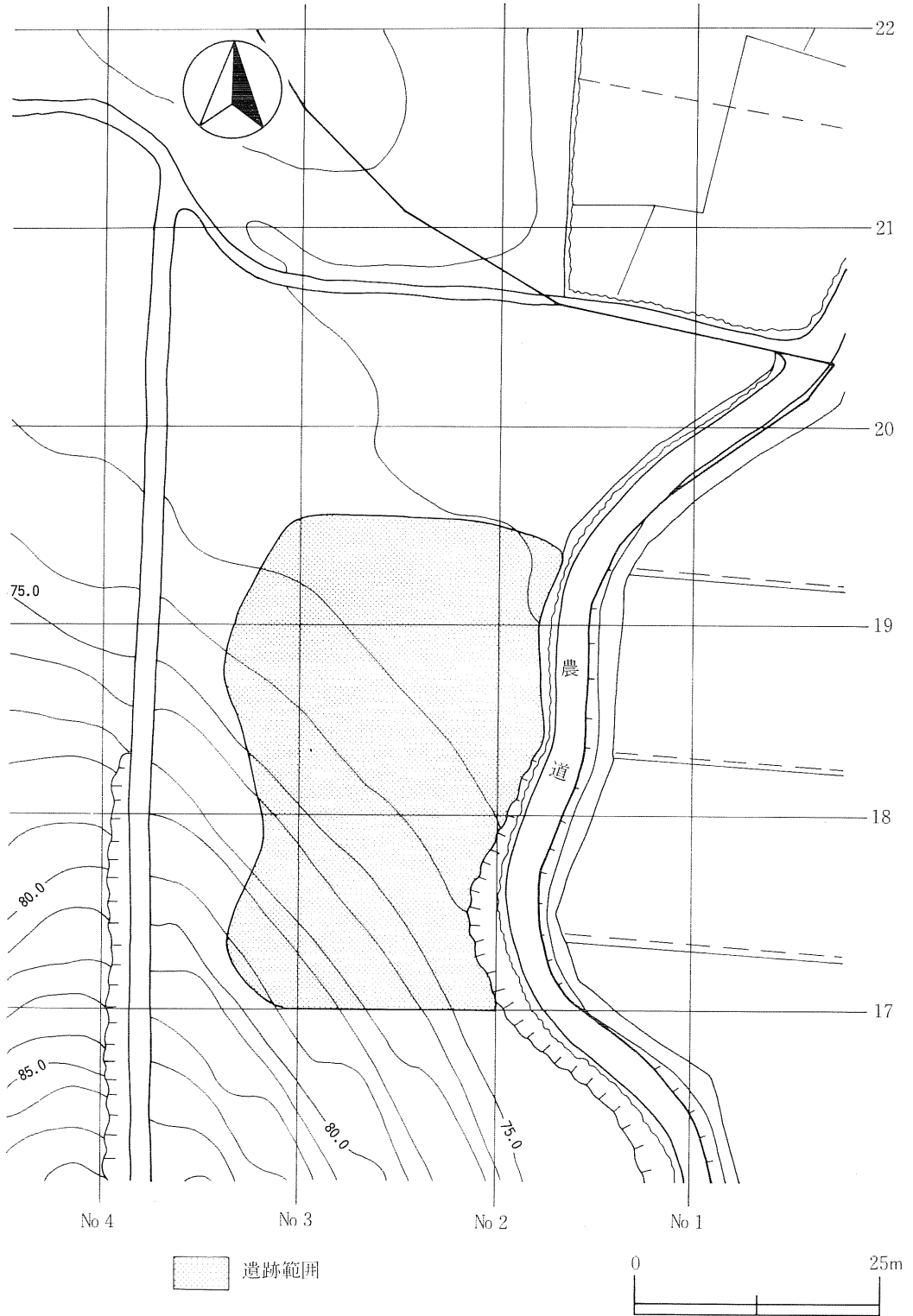
本遺跡は、平成2年9月19日～11月28日に発掘調査が行われている。



第70図 田久保下遺跡 位置図



第71図 田久保下遺跡 試掘トレンチ設定図



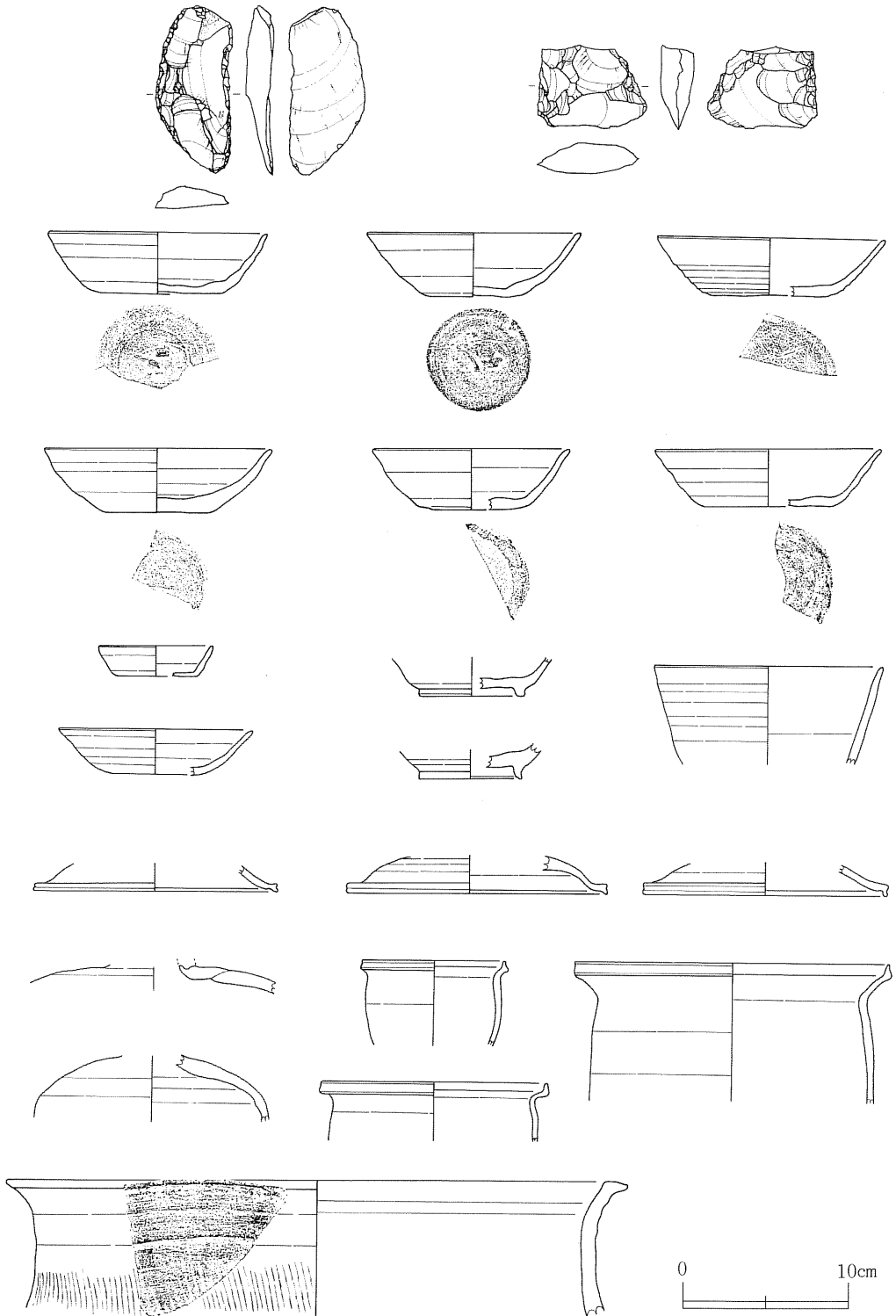
第72図 田久保下遺跡 事業区域内遺跡範囲図



第73図 田久保下遺跡全景（北東▶）



第74図 田久保下遺跡出土 古墳時代の土器



第75図 田久保下遺跡 出土遺物実測図



## 8 県道協和・松ヶ崎線道路改良工事

### 和田遺跡

- 1 所在地 仙北郡協和町上淀川字和田149
- 2 工事区域内遺跡面積 1,000m<sup>2</sup>
- 3 調査期間 平成2年4月16日～19日
- 4 調査担当者 小畑 巖、高橋 学
- 5 遺跡の立地と現況

遺跡は協和町上淀川集落の西約1.3Kmにあり、南西に向かって蛇行する淀川の右岸段丘上に立地する。標高は49～54mあり、北から南に緩く傾斜している。遺跡の西約2.5Kmには、縄文時代前期の放射状に配列された大型住居跡が検出された上ノ山Ⅱ遺跡がある。現況は、ナラと杉などからなる山林である。

### 6 範囲・時代・性格

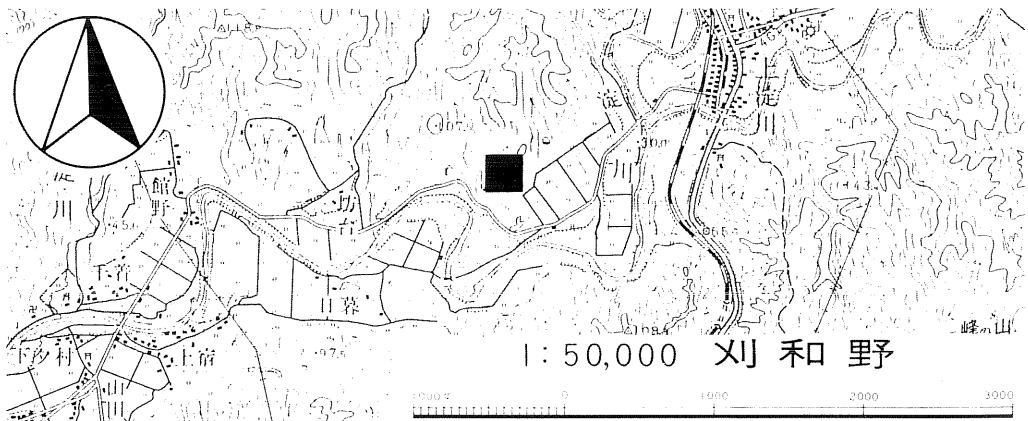
幅1mのトレンチを設定し、調査を行った。その結果、道路センター杭No.113とNo.116に入っている二つの沢に挟まれた台地上で土坑1基、弥生土器、凹石が検出された。このことから、弥生時代の遺構・遺物がさらに検出される可能性が大と推定される。

なお、遺構・遺物の出土層位は、5～20cmの表土(I層)の下の褐色土(Ⅱ層)で弥生土器を確認でき、Ⅲ層黒褐色土下層で遺構が検出できた。地山(Ⅳ層)は黄褐色粘土である。

要調査範囲の西側には平坦面がみられるが、遺構・遺物は検出されなかった。従って、台地の先端に近い部分に遺跡の中心があるものと推定される。

### 7 参考事項

この遺跡は、平成2年5月21日～6月22日まで発掘調査が行われている。



第76図 和田遺跡 位置図



第77図 和田遺跡 事業区域内遺跡範囲図



第78図 和田遺跡 調査風景（東▶）



第79図 和田遺跡 近景（北西▶）